

チャレンジコミュニティ大学10周年記念

チャレンジコミュニティ大学
チャレンジコミュニティ・クラブ

活動報告書

[2007年(平成19年)~2016年(平成28年)]



港区・明治学院大学 連携
チャレンジコミュニティ大学

チャレンジコミュニティ大学10周年記念

チャレンジコミュニティ大学
チャレンジコミュニティ・クラブ

活動報告書

[2007年(平成19年)~2016年(平成28年)]



港区・明治学院大学 連携
チャレンジコミュニティ大学

チャレンジコミュニティ大学 10 周年を迎えて

チャレンジコミュニティ大学学長 港区長 武井雅昭



チャレンジコミュニティ大学は、地域の活性化や地域コミュニティの育成など、地域で積極的に活躍するリーダーの養成を目的として、平成 19 年に港区と明治学院大学との連携により開設され、来年 4 月で 10 周年を迎えます。

都心回帰の現象などにより港区の人口が急速に増加し、地域コミュニティの育成や活性化が課題となる一方で、自分が住む地域に貢献したいと願う熱意のある高齢者や高齢期を迎える方々が多くいらしたことから、生きがいつくりの支援と合わせた取組として開設いたしました。

約 520 名に上る修了生は、町会・自治会の役員、民生委員・児童委員、各地区総合支所における区民参画組織メンバーなどとして活動されるほか、地区別のチャレンジコミュニティ・クラブも発足させ、実に幅広く地域で活躍していただいております。心から敬意を表しますとともに、深く感謝を申し上げます。

港区では、現在、全ての世代において人口が増えており、「港区人口ビジョン」(平成 28 年)では、平成 48 年まで引き続き各世代の人口が増加すると推計しています。また、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の開催が 4 年後に迫り、港区の街並みはこれまでにないスピードで変わりつつあります。人々の価値観やライフスタイルが多様化し、家庭環境や地域における人と人とのつながりが大きく変容する中、地域コミュニティにおける住民同士の活発な交流は、日々の安全・安心な暮らしや、災害時の共助において欠かすことができません。区は、コミュニティリーダーを養成するなど、引き続き地域コミュニティの活動を積極的に支援してまいります。

平成 18 年 4 月に、「より便利に、より身近に、より信頼される区役所・支所」の実現を目指した「区役所・支所改革」を実行し、各地区に総合支所を設置してから 10 年が経ちました。総合支所を中心とした「参画と協働」により築いてきた地域の皆さんとの強い信頼関係の下、活力と魅力に溢れ、多様な人や文化が共生する「区民一人ひとりが誇りに思える成熟した国際都市」の実現に向け、今後とも全力で取り組んでまいります。

来年 3 月には、港区政 70 周年を迎えます。チャレンジコミュニティ大学を通じて、区民の皆さんがこれまでに培ってきた豊富な知識と経験に、更に磨きをかけ、自主的・主体的に地域の中で活かしていただくことは、港区の更なる発展のための大きな力となるものであり、大変心強く思っております。修了生の皆さんにおかれましては、健康にご留意いただき、これからも元気に地域でご活躍いただけることを切に願っております。

最後になりましたが、チャレンジコミュニティ大学の運営にご尽力いただいております、明治学院大学の松原康雄学長はじめ、多くの関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

つながりの大切さ

明治学院大学学長 松原康雄



チャレンジコミュニティ大学（以下、CC大学）は、今年度で第10期となります。60名の方々と新たなつながりが今年も形作られています。チャレンジコミュニティ大学は、知識の提供だけでなく、見学や実体験などにも取り組む主体的な活動を提供してきています。この特色あるプログラムは、区民参加者、港区長をはじめとする港区職員の皆様、そして本学教職員によって支えられています。また、各年度実りある成果があがるとともに、いまでは修了者の方々の集まりであるチャレンジコミュニティ・クラブが結成され、学んだことも活かしながら、多様な地域活動に取り組まれています。それまでの同期生間や担当教職員とのつながりに加えて、各期の方々の間にもつながりができてきています。「集う」ことには、基盤として楽しい、心安らぐ「時」が約束され、そこから新たな問題意識醸成や解決方法の模索があるとともに、実際の活動に結び付いていくこととなります。そして、その活動こそが次の新たな「集い」になっていきます。孤立しがちな現代社会にあって、人と人とのつながりは何にもかえがたいものであると思います。

本学も、CC大学によって新たなつながりを持たせていただくことができました。大学の地域貢献は最近の大きな潮流となっていますが、本学は先駆的にそれに取り組むとともに、関係者の顔と名前が一致するつながりを形成させていただいています。ともすると、名目だけの協定やマンネリ化したプログラムの提供に終始してしまいがちな地域貢献が、これほどまでにダイナミックに継続していることは本学の誇りでもあります。キャンパスに定期的にCC大学の方々がいらっしゃってくださることは、本学学生にとっても、もし会話等の機会が与えられれば、それをきっかけに新たなつながりを形成することも可能となります。クラスを担当する教員にとっても、熱心に聞かれている皆様との間には良い緊張感が存在していますし、いただく質問には鋭く新鮮な視点を感じさせられることが多々あります。プログラム進行を支える職員にとっても、学内環境とは異なる環境の中での活動や港区職員の方々とつながりが貴重な経験となっています。このように、本学も実りあるつながりを持たせてきていただきました。

チャレンジコミュニティ大学には、毎年定員を超えるお申し込みをいただいています。全員のご希望には添えないことはお詫びいたしますが、定員数を守ることで質の高いプログラムを維持できていると考えています。本学は、港区との連携のもとで、このプログラムのさらなる充実と強化を図っていく所存です。10年間のつながりは、昨年度の大学基準協会による認証評価でも、「地域コミュニティのリーダー養成を目的とした」すぐれた活動として評価されるなど、本学にとっても貴重なものとなっています。今後20年、30年とこのつながりが継続していくことを願っています。

ゆとりのある生活の実現と民主主義

チャレンジコミュニティ大学総括コーディネーター 河合克義（社会学部教授）



チャレンジコミュニティ大学（以下、CC大学）の開校から10年が経過しました。この間に600人がCC大学で学んだこととなります。コミュニティのリーダー育成を目的にスタートしましたが、今や地域の課題に立ち向かう多様なグループが生まれています。リーダーは活動の最前列で働く人びとがいてこそ、リーダーでいられるわけですが、その意味では、日常の活動を支える人びとこそ主人公とも言えます。

CC大学を構想する時、基本に据えた考え方は、講座に参加する人びとの、単なる「自己実現」ではなく、地域で困っているながら声を上げない人びとの気持ちを理解し、寄り添い、そうした人びとのために何が出来るかを考える、そうした姿勢を持つ人を育てたいということでした。全国に生涯学習や福祉の各種講座がたくさんあります。しばしば受講者の知識を深めることのレベルで終わってしまうような講座もありますが、CC大学は、知識も大切ですが、それ以上に港区という地域の実態を学び、課題を明らかにし、その課題を解決するために自分に何が出来るかを考える機会を提供してきました。

CC大学の入学生に毎年尋ねていることがあります。それは、入学生の中で前からの知人がいるかどうかという質問です。以前からの知人がいる人は、平均で10%程度です。1学年60名定員ですので、50人は新たな友人となります。CC大学の卒業生でチャレンジコミュニティ・クラブ（CCクラブ）を結成して活動していますから、卒業生とのネットワークも出来ます。港区内で600人の顔見知りができること、これは素晴らしいこと、大きな力です。

CC大学の授業の最後は、箱根湯本の温泉で1年間の学びのまとめをしています。今年、ある受講生がつぎのようなことを話してくれました。自分は、ジャーナリストとしていろいろな問題を考えてきた。CC大学で1年間学んで一番変わったと思うことは、地域の人に目を向けることができるようになったことだということです。具体的な出来事を話してくれました。ある日、近くのスーパーに買い物に出かけ、店を出るとき、ある高齢の女性が重たそうに買い物袋を下げて前を歩いていた。そこでその女性に駆けよって荷物をお持ちしましょうと語りかけ、自宅まで持って行ったということです。前の自分ならば、このような高齢者を見ても、なんとも思わなかった。しかし、CC大学で学んで自分の考えが少し変わった、<気づき>と<新たな行動>が出来るようになったということです。

CC大学は10年の節目を迎えました。港区にも生活に余裕がなく、生活に追われている人がいます。CC大学そしてCCクラブの活動がめざすものは、そうした人びとの安心を作るお手伝いをするだけではありません。すべての区民が、生活に余裕あるいはゆとりを持ち、社会のいろいろな課題について情報を得る時間を持ち、自分の考えを持てるような地域を実現することをめざしたいと思います。それは、民主主義を守ること・発展させること、でもあるのです。

ごあいさつ

チャレンジコミュニティ大学学長 港区長	武井雅昭	3
明治学院大学学長	松原康雄	4
チャレンジコミュニティ大学総括コーディネーター	河合克義	5

第 I 部 チャレンジコミュニティ大学 活動と報告

I - 1 チャレンジコミュニティ大学とは

1. チャレンジコミュニティ大学とは	12
(1) 開設の趣旨および概要	12
(2) チャレンジコミュニティ大学のしくみ	12
(3) 修了後の活動について	12
2. 履修科目、授業内容	13
3. 申込資格	13
チャレンジコミュニティ大学の概要図	14

I - 2 チャレンジコミュニティ大学の一年 (2015 年度)

1. 授業	16
2. 入学式、修了式および学外での実習等行事	16
(1) 入学式	16
(2) 美術館見学 (畠山記念館)	17
(3) 美術館見学 (東京都庭園美術館)	17
(4) 施設見学授業 (春学期)	17
(5) 春学期まとめの会	18
(6) 健康「自然探索とコミュニケーション」	18
(7) バッハ・アカデミー合唱団特別演奏会	19
(8) 施設見学授業 (秋学期)	19
(9) 宿泊研修	20
(10) 修了式	20

I - 3 チャレンジコミュニティ大学 講義内容の紹介

1. 2015 年度 講義等日程	22
2. 講義テーマ、内容および講師紹介 (2015 年度入学ガイドブックより抜粋)	24
(1) 福祉	24

(2) 法律	25
(3) 社会	26
(4) 心理	26
(5) 経済	27
(6) 文学	27
(7) 芸術	28
(8) スポーツ	28

I - 4 チャレンジコミュニティ大学の思い出

(講師)

今尾真教授	30
清水浩一教授	31
和気康太教授	32
明石留美子教授	33

(修了生)

第 1 期 岩村道子	34
第 2 期 吉田由紀子	34
第 3 期 雨宮武	34
第 4 期 鈴木豊子	35
第 5 期 水谷久美子	35
第 6 期 小倉徳子	35
第 7 期 管美知子	36
第 8 期 宮下玲子	36
第 9 期 伊豆村房一	36

第 II 部 チャレンジコミュニティ・クラブ 活動と報告

ごあいさつ チャレンジコミュニティ・クラブ代表 斎藤正精	39
チャレンジコミュニティ・クラブとは	40
チャレンジコミュニティ・クラブこれまでの主な活動 (CC 通信からみた 9 年間)	41
チャレンジコミュニティ・クラブ活動実態調査報告 - 会員調査のデータから (速報) -	52
チャレンジコミュニティ・クラブ会員 活動グループ状況調査報告	62

第 I 部

チャレンジコミュニティ大学
活動と報告

I-1

チャレンジコミュニティ大学とは

1. チャレンジコミュニティ大学とは

(1) 開設の趣旨および概要

チャレンジコミュニティ大学（以下、CC 大学）は、高齢者や今後高齢を迎える世代がいままで培ってきた知識・経験を地域に生かし、生きがいのある豊かな人生を創造し、また、学習を通じて、個々の能力を再開発することをめざしています。

さらに、高齢社会の充実のため、地域の活性化や地域コミュニティの育成の原動力として積極的に活躍していただく、地域活動のリーダーを養成することを目的としています。

大学での授業形態は、講義・体験学習・実地見学を基本としています。

授業内容は、社会福祉関係の分野を柱として構成されていますが、高齢者として必要な基礎知識が習得できるよう、幅広い授業内容となっています。

例えば、一般教養の法律分野は、高齢者に関わりの深い「相続や遺言」、悪徳商法などに騙されないよう「契約の心得」など、生活に身近な問題を取り上げて、法律関係を学ぶことができる内容となっています。

また、各自の地域福祉活動に役立つ科目として、ボランティア団体、福祉団体等の見学といった社会参加型の授業内容も組み込まれています。

健康増進の分野としては、健康づくりに役立つように、ストレッチ運動、ウォーキングなど高齢者に合った運動のしかた等について講義と実技を行います。

この他にも、教室を出て講師と一緒に美術鑑賞や音楽鑑賞、自然探索といった授業もあります。

また、1年間の締めくくりとして、宿泊研修（研究発表、意見交換など）を実施しています。

相談等の支援として、3グループの少人数制（アドバイザー方式）により行う授業もあり、きめ細やかな運営を行っています。

(2) チャレンジコミュニティ大学のしくみ

港区が区内にある明治学院大学に業務委託し、大学内に開設するものです。講師陣は、主に明治学院大学の教員等が担当します。

また、区や区内の地域団体・機関のしくみについて、地域で活動している団体・機関の代表者から紹介します。

地域の大学、地域で活動する団体・機関とが連携し、受講者が地域で活躍するための基盤を築くことができるように、積極的に支援するしくみとなっています。

なお、明治学院大学内の多くの施設（図書館や食堂施設）は、在学生と同様に利用できます。

大学のイメージ図は、P.14の「チャレンジコミュニティ大学の概要図」をご覧ください。

(3) 修了後の活動について

修了後は、CC 大学の修了生を会員とする「チャレンジコミュニティ・クラブ」（以下、CC クラブ）に登録していただいています。

CC クラブとは、CC 大学修了生の情報交換、資質の向上、地域活動の推進などを目的とした組織で、会員が自主的に運営しています。CC クラブ独自の活動として、機関誌の発行、自主学習会、講演会の開催などを行っています。また、区からの情報も、CC クラブを通して修了生に提供されます。

2. 履修科目、授業内容

CC 大学の履修科目（カリキュラム）には、講義、校外授業（体験・見学・実習等）、宿泊研修があります。カリキュラムは大きく3つ（社会参加、健康増進、一般教養）に分類してあります。

社会参加（福祉・行政）

「社会参加」は、地域活動をするにあたっての基礎知識などをテーマにした福祉と行政関連の授業です。地域社会の現状や課題、区の行政課題といった内容の講義が中心となり、これらの課題についての討議も行います。また、ボランティア活動や福祉施設の見学といったように地域社会に出る授業もあります。見学の際は、バスで移動し、授業内容により、3グループの少人数制（アドバイザー方式）で行っています。

健康増進（スポーツ・健康）

「健康増進」は、生涯スポーツや校外授業など、健康の管理や増進をテーマにした授業です。授業の形態としては、テーマにそった講義と実際に体を動かす実習が中心となります。

また、秋の校外授業では自然探索（ウォーキング）も行っています。

一般教養（文学・芸術・経済・社会・法律・心理・環境）

「一般教養」は、主に高齢者に身近な法律、社会、経済事情、芸術などの教養をテーマにした授業です。授業の形態としては、講義が中心ですが、美術鑑賞や音楽鑑賞も行っています。

3. 申込資格

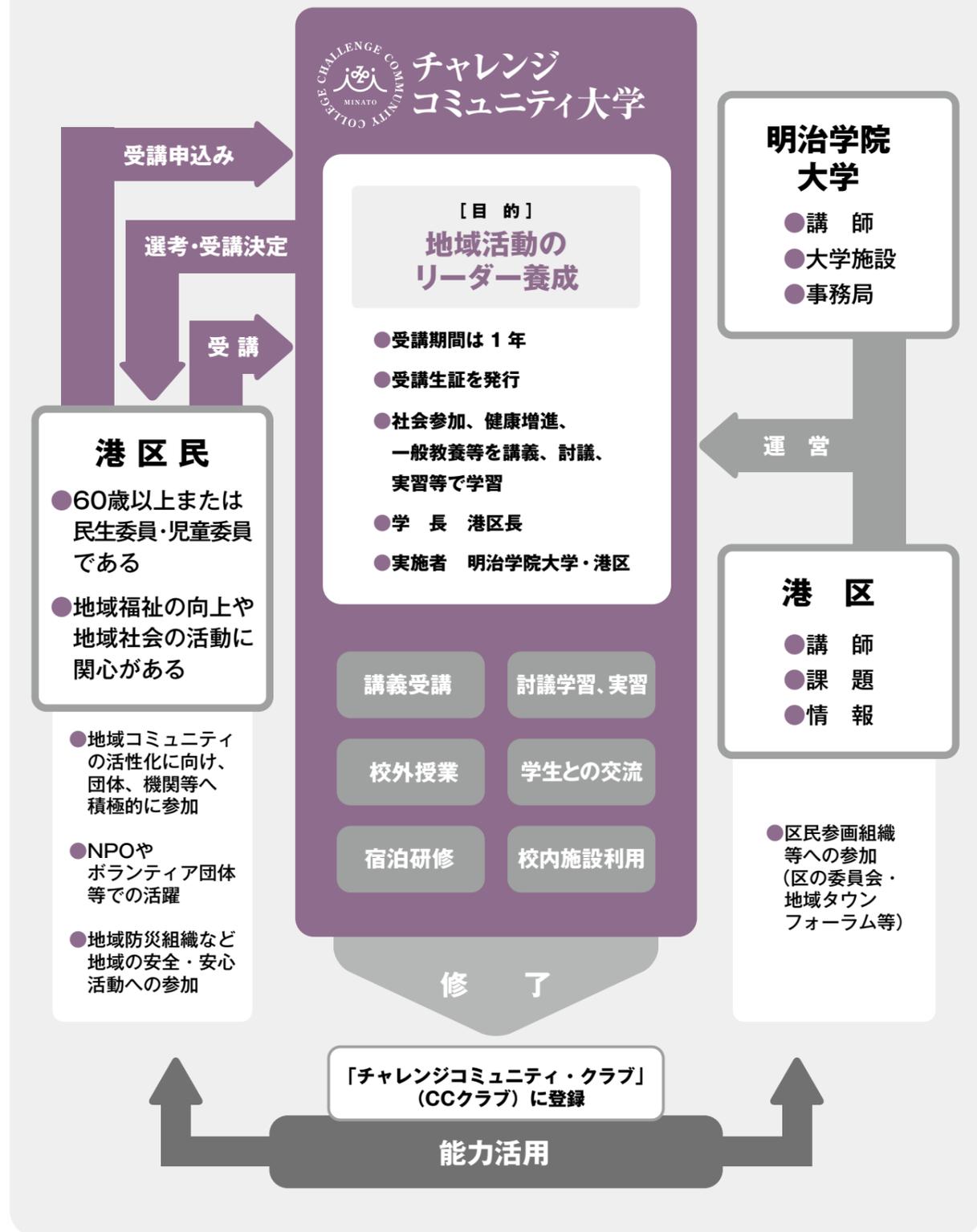
申込みのできる人は、地域福祉の向上や、地域社会の活動に関心があり、修了後、地域で積極的に活躍する意欲のある人で、港区にお住まいの60歳以上または民生委員・児童委員である人です。募集人員は60名です。

※受講が決定しても、入学時に港区民でない場合は、入学ができません。

チャレンジコミュニティ大学の概要図

[イメージ]

※学校教育法に基づく学校ではありません



I-2

チャレンジコミュニティ大学の一年 (2015年度)

1. 授業

一年を通して、明治学院大学白金校舎の本館 1254 教室で講義が行われた。また、スポーツ実習はパレットゾーン白金のメインフロアで行われた。スポーツ実習では最初に体力測定を行い、受講生が余力をもって日々の活動ができるようにと、ストレッチの方法や安全なウォーキングの仕方等を学んだ。



通常の授業風景



スポーツ実習の授業風景

2. 入学式、修了式および学外での実習等行事

(1) 入学式

4月11日(土)、CC大学の2015年度入学式が明治学院大学白金校舎のアートホールで行われた。入学式には、第9期受講生58名(欠席2名)と、CC大学学長である武井雅昭港区長はじめ港区議会議員や港区職員、明治学院大学の鶴殿博喜学長はじめ教授陣スタッフ等が多数参加した。



アートホールにて

入学式後、全体の説明会と各グループでのオリエンテーションを行った。オリエンテーションでは各グループのグループアドバイザーの挨拶の後、メンバーもそれぞれ自己紹介をした。



オリエンテーションの様子

(2) 美術館見学(畠山記念館)

5月23日(土)、「日本美術史を愉しむために」と題して、港区白金台にある畠山記念館を見学する授業を実施した。会議室で水田至摩子学芸課長と芸術学科の山下裕二教授の説明を受けた後、2階展示室に移動し、展示品を鑑賞した。見学した日は、春季展「畠山即翁の大師会茶会—井戸茶碗野信長の取り合せ—」【併設】増田鈍翁ゆかりの茶道具が行われており、千利休作「茶杓 銘 落曇(おちぐもり)」を含む選りすぐりの美術品を楽しんだ。



畠山記念館 会議室にて

(3) 美術館見学(東京都庭園美術館)

6月20日(土)、「港区の風景と文化—見学と散策—」のテーマのもと、東京都庭園美術館を見学した。巖谷國士名誉教授から解説を受けた後、この度開催されていた「マスク展」(フランス国立ケ・ブランリ美術館所蔵品)を鑑賞した。この展覧会は、アフリカ、アジア、オセアニア、アメリカから集められたマスク(仮面)をテーマに開催される、日本国内また同館初の大規模なコレクション展(出展されているマスクは約100点)で、マスクは地域別に分かれ、旧朝香宮邸の広間・居室に展示されていた。鑑賞に際して巖谷名誉教授、庭園美術館の学芸員が展示品について解説をし、受講生はその説明に興味深く聞き入っていた。



庭園美術館 ギャラリーにて

(4) 施設見学授業(春学期)

7月4日(土)、3グループに分かれて福祉施設の見学授業を実施した。現地ではまず、施設長等による説明を聞いた上で、施設内を職員の方に解説してもらいながら見学した。各施設の現状や特徴、運営上の問題点等を学ぶことができた。

第1Gr. 母子生活支援施設ベタニヤホーム

引率 久保美紀 教授

第2Gr. 東京都知的障害者育成会 レインボーハウス明石

引率 深谷美枝 教授

第3Gr. 横浜市 寿町

引率 清水浩一 教授



レインボーハウス明石にて



横浜市寿町ことぶき生活館にて

(5) 春学期まとめの会

秋学期初めての授業である9月26日(土)午後、グループメンバー同士のコミュニケーションを促進し、グループ活動を深めるきっかけを作るため、開校以来初めて春学期まとめの会を開催した。吉井淳副学長による「海洋法と国際紛争」、井上孝代学長特別補佐による「“終活”から“花活”へ～ポジティブ心理学の学びとホ・オポノポノの教えから～」と題した特別講義の後、「地域のためにどのような活動ができるか」のテーマのもと、春学期講義終了後から夏期休暇を利用して行ったグループ活動についての報告会が行われた。その後、パレットゾーン白金1階ダイニングラウンジに移動し、懇親会を行った。



井上孝代学長特別補佐による特別講義



グループ活動報告会



懇親会の様子

(6) 健康「自然探索とコミュニケーション」

11月21日(土)、明治学院大学横浜校舎の見学のあと、隣接する「舞岡公園」を体育教員とともに散策した。11月7日(土)の実習授業「有酸素運動入門-効果的で安全なウォーキング-」で学んだ『安全なウォーキング』を自然の中で実践することが目的で、自然探索とコミュニケーションを楽しみながら、心と身体のリフレッシュをした。



舞岡公園内 古民家前にて

(7) バッハ・アカデミー合唱団特別演奏会

11月28日(土)、白金校舎のアートホールにてバッハ・アカデミー合唱団による特別演奏会「日本の合唱音楽とモーツァルト」を開催した。出演はソプラノ独唱光野孝子氏、ピアノ伴奏栗島和子氏、合唱バッハ・アカデミー合唱団員、指揮と曲目解説は樋口隆一名誉教授が行い、受講生は美しい響きのアートホールで演奏を堪能した。



樋口隆一名誉教授による曲目解説

(8) 施設見学授業(秋学期)

12月5日(土)、春学期に実施した施設見学のグループを入れ替え、再度施設見学を行った。レインボーハウス明石では、パワーポイントで施設の説明を聞いた後、複数の居住ユニットを見学した。また、横浜市の寿町では、簡易宿泊所の部屋や学童保育などを見学した。そしてベタニヤホームでは、「母子家庭のおかれている現状について」、また「その背景にある日本社会の状況」などの説明を聞き、どのグループも普段個人では見ること、聞くことのできないことを知り、学ぶよい機会となった。

第1Gr. 東京都知的障害者育成会 レインボーハウス明石	引率 深谷美枝 教授
第2Gr. 横浜市 寿町	引率 清水浩一 教授
第3Gr. 母子生活支援施設ベタニヤホーム	引率 久保美紀 教授



レインボーハウス明石にて

(9) 宿泊研修

2月24日(水)・25日(木)、学習の集大成である宿泊研修会を、箱根湯本にて実施した。研修会では、講師の牧岡英夫氏による「地域課題発見の方法 地域組織化と地域リーダーの役割」と題した講義の後、グループ別討議を行った。夕食後も討議は行われ、夜遅くまで続いた。翌日は、各グループでの討議のまとめ発表や、全体討議を行った。



牧岡英夫氏の講義



グループ討議



集合写真

(10) 修了式

3月12日(土)、白金校舎アートホールにて一年間学習を進めてきた第9期生の修了式が行われ、58名の方が修了した。CC大学学長の武井雅昭港区長はじめ、港区議会議員や港区議会議員・港区職員、明治学院大学の鶴殿博喜学長はじめ教授陣スタッフ等が多数参加し、祝福の中、無事に修了式が執り行われた。



式辞を述べる武井雅昭港区長



修了記念写真

I-3

チャレンジコミュニティ大学
講義内容の紹介
(2015年度入学ガイドブックより抜粋)

1. 2015年度 講義等日程

春学期

年月日	曜日	時限	分野	テーマ	形態	講師
2015年 4月	4月11日	土 午後		入学式、ガイダンス		
	4月15日	水 1	福祉	地域福祉と住民参加①ー地域・生活を見る目ー	講義	河合克義
	4月15日	水 2	福祉	地域福祉と住民参加②ー住民生活の実態と地域福祉活動ー	講義	河合克義
	4月22日	水 1	福祉	高齢者の実像と高齢者福祉①	講義	岡本多喜子
	4月22日	水 2	文学	明治学院校歌を「読む」	講義	嶋田彩司
	4月25日	土 3	文学	日本の小説	講義	高橋源一郎
	4月25日	土 4	スポーツ	高齢者の健康と体力ー心からだの元気づくりー	講義	亀ヶ谷純一
5月	5月9日	土 3	文学	フィクションの定義をめぐって	講義	レヴィ・ジャック
	5月9日	土 4	福祉	高齢者の実像と高齢者福祉②	講義	岡本多喜子
	5月13日	水 1	福祉	子どもと社会福祉①ー子育て支援、子どもの権利擁護ー	講義	松原康雄
	5月13日	水 2	芸術	日本美術史を愉しむために	講義	山下裕二
	5月23日	土 午後	芸術	日本美術史を愉しむためにー見学ー	見学	山下裕二
	5月27日	水 1	福祉	子どもと社会福祉②ー子育て支援、子どもの権利擁護ー	講義	松原康雄
	5月27日	水 2	スポーツ	運動処方入門ー自己の基礎体力を把握しようー	実習	亀ヶ谷純一・黒川杉崎
6月	6月6日	土 3	芸術	港区の風景と文化ー縄文時代から現代までー	講義	巖谷國士
	6月6日	土 4	スポーツ	運動不足によるからだの変化と運動	講義	森田恭光
	6月10日	水 1	社会	医療技術を通して見る生老病死と社会	講義	柘植あづみ
	6月10日	水 2	福祉	今日の貧困と生活保護①ー誰もが安心して生活できる社会をめざしてー	講義	新保美香
	6月13日	土 3	福祉	精神障害と社会福祉①ー日本の精神医療の歴史・現状・今後の課題、統合失調症を中心にー	講義	村上雅昭
	6月13日	土 4	福祉	精神障害と社会福祉②ー日本の精神医療の歴史・現状・今後の課題、うつ病を中心にー	講義	村上雅昭
	6月20日	土 午後	芸術	港区の風景と文化ー見学と散策ー	見学	巖谷國士
	6月24日	水 1	経済	組織のリスク・マネジメントー長期存続のための経営とはー	講義	神田 良
	6月24日	水 2	社会	東京大都市圏の空間形成とコミュニティ-社会地区分析とコミュニティ・スタディー	講義	浅川達人
7月	7月4日	土 午後	福祉	施設見学(その1)Aグループ	見学	清水浩一
	7月4日	土 午後	福祉	施設見学(その1)Bグループ	見学	深谷美枝
	7月4日	土 午後	福祉	施設見学(その1)Cグループ	見学	久保美紀
	7月8日	水 1	福祉	今日の貧困と生活保護②ー誰もが安心して生活できる社会をめざしてー	講義	新保美香
	7月8日	水 2	スポーツ	心と身体のリフレッシュ(I)ー暮らしの中でのからだづくりー	実習	亀ヶ谷純一
	7月18日	土 3	福祉	共生社会で求められるものとはー社会福祉が捉える「障害」を手がかりにー	講義	中野敏子
	7月18日	土 4	福祉	障害者雇用の現状と諸制度ー働く障害者の姿を通してー	講義	八木原律子
	7月22日	水 1	行政	港区のしくみと行政課題(その1)	講義	港区
	7月22日	水 2	行政	港区のしくみと行政課題(その1)	講義	港区
	7月25日	土 3	行政	港区のしくみと行政課題(その2)	講義	港区
	7月25日	土 4	行政	港区のしくみと行政課題(その2)	講義	港区
	7月29日	水 1	行政	港区のしくみと行政課題(その3)	講義	港区
	7月29日	水 2	行政	港区のしくみと行政課題(その3)	講義	港区

秋学期

年月日	曜日	時限	分野	テーマ	形態	講師
9月	9月26日	土 午後		春学期まとめの会		
	9月30日	水 1	心理	老年期の心理ー生涯発達心理学の立場からー	講義	野村信威
	9月30日	水 2	心理	認知症の理解とその予防ー回想法による認知症予防のアプローチー	講義	野村信威
10月	10月3日	土 3	心理	え?高齢者にもあるの?だから「うつ」について学びませんか	講義	岡田和久
	10月3日	土 4	健康	高齢者の医学ー体と病気のメカニズムー	講義	田口 進
	10月7日	水 1	福祉	日本の社会保障のグローバル化対応	講義	岡 伸一
	10月7日	水 2	福祉	社会保障の国際基準と国際法	講義	岡 伸一
	10月17日	土 3	福祉	老人漂流社会ー老後の居場所をどう作るのかー	講義	板垣淑子
	10月17日	土 4	福祉	ユニバーサルデザインと福祉機器	講義	花房昭彦
	10月21日	水 1	福祉	ボランティア・NPO活動論①	講義	河合克義
	10月21日	水 2	福祉	ボランティア・NPO活動論②ー数十年にわたる地域保健・福祉活動の実践からー	講義	依田発夫
11月	11月7日	土 3	経済	暮らしと税金ー国の借金と消費税の役割ー	講義	江川雅司
	11月7日	土 4	スポーツ	有酸素運動入門ー効果的で安全なウォーキングー	実習	杉崎範英
	11月11日	水 1	行政	港区のしくみと行政課題(その4)	講義	港区
	11月11日	水 2	福祉	現代社会の貧困にみる社会的排除の諸相	講義	清水浩一
	11月21日	土 終日	健康	心と身体のリフレッシュ(II)ー自然探索とコミュニケーションー	体験	亀ヶ谷純一・黒川杉崎
	11月25日	水 1	法律	ワイン市場と法規制ーなぜワイン法が必要なのかー	講義	蛭原健介
	11月25日	水 2	芸術	日本近代音楽の150年	講義	樋口隆一
	11月28日	土 夕方	芸術	日本の合唱曲ー鑑賞ー	鑑賞	樋口隆一
12月	12月5日	土 午後	福祉	施設見学(その2)Aグループ	見学	清水浩一
	12月5日	土 午後	福祉	施設見学(その2)Bグループ	見学	深谷美枝
	12月5日	土 午後	福祉	施設見学(その2)Cグループ	見学	久保美紀
	12月9日	水 1	経済	日本型マーケティングの新展開ー囲い込みからオープン型へー	講義	池尾恭一
	12月9日	水 2	政治	行政とメディアー地域をつなぐコミュニケーションー	講義	川上和久
	12月19日	土 3	法律	暮らしに役立つ民法ー身の周りの法律問題(財産法)・家族の法律問題(夫婦・高齢者の財産管理、相続・遺言等)ーQ&A	講義	今尾 真
	12月19日	土 4	スポーツ	身体運動の仕組みと身体機能の加齢性変化ー筋肉の機能を中心にー	講義	黒川貞生
2016年 1月	1月9日	土 3	福祉	災害マネジメントー災害への備えー	講義	明石留美子
	1月9日	土 4	福祉	現代社会と地域福祉ー地域福祉計画を中心にー	講義	和気康太
	1月13日	水 1	福祉	社会福祉協議会とはーその歴史と性格ー	講義	河合克義
	1月13日	水 2	福祉	住む人みんなが創る福祉のまちーもっとよく知ろう社会福祉協議会の活動ー	講義	種石 進
	1月23日	土 3	環境	問い直される安心と安全ー放射能と食とリスク社会ー	講義	藤川 賢
	1月23日	土 4	法律	知っておきたい成年後見制度ー自分と、家族の安心のためにー	講義	黒田美亜紀
	1月27日	水 1	法律	身近な消費者問題ー消費者トラブル回避のためにー	講義	大木 満
	1月27日	水 2	法律	映画にみる税金ー租税文化の一側面ー	講義	渡邊 充
2月	2月13日	土 3	福祉	町内会・自治会と地域づくりー地域住民組織の新たな活動スタイルの模索ー	講義	菅野道生
	2月13日	土 4	経済	統計的なものの見方ー身近な統計数値の読み方ー	講義	西尾 敦
	2月17日	水 1	福祉	社会貢献とリーダーシップ	講義	明石留美子
	2月17日	水 2	スポーツ	元気で動ける身体をめざしてー高齢者における筋機能の重要性と筋肉づくりー	実習	黒川貞生
	2月24日	水	福祉	地域課題発見の方法、地域組織化と地域活動リーダーの役割①	講義・討論	牧岡英夫
	2月25日	木	福祉	地域課題発見の方法、地域組織化と地域活動リーダーの役割②	講義・討論	牧岡英夫
3月	3月12日	土 午後		修了式		

2. 講義テーマ、内容および講師紹介 (2015年度入学ガイドブックより抜粋)

(1) 福祉

[講義担当者] 岡本多喜子 (社会学部)
[講義テーマ] 高齢者の実態と高齢者福祉

[講義概要] 高齢者福祉を考えるための基本である高齢者の実態と、マスコミに報道される高齢者像との差を考察する。人口高齢化は世界的な傾向であること、高齢者を集団としてとらえることによる問題を検討する。その中で日本の高齢者や高齢者福祉、地域社会のありようを考えていく。介護保険制度が実施されて以降、高齢者福祉はすべて介護問題で解決されると思われているが、この点も検討する。これらを2回にわけて講義する。

[自己紹介] 大学での担当科目は高齢者福祉論です。高齢者関連の研究機関の出身です。そこでは社会老年学の視点から高齢者やその家族、地域社会や施設、行政施策や事業評価、歴史などについて調査研究をしてきました。現在は、養老院時代の利用者・職員・組織などの第1次資料による歴史研究、東日本大震災の被災地での専門職支援、福祉サービスの苦情解決と質の向上委員会委員、特別養護老人ホームの優先入所委員などをしております。

[講義担当者] 新保美香 (社会学部)
[講義テーマ] 今日の貧困と生活保護－誰もが安心して生活できる社会をめざして－

[講義概要] 長期化する経済不況を背景として、テレビや新聞などを通じて「貧困」「生活保護」に関連した話題を見聞きする機会が増えています。この講義では、こうした「現代の貧困」をめぐる様々な状況を把握し、そこでの課題をいかに解決できるか、受講生のみなさまと一緒に考えていきます。ビデオ映像や資料から、現代的な貧困の現実を理解するとともに、生活保護制度など、生活が困った時に活用できる制度のしくみや活用方法もご紹介します。

誰もが安心して生活できる社会にしていくために、今、これから、私たちにできることはなにか、受講生のみなさまと一緒に見出していきたいと思えます。「チャレンジ世代」のみなさまならではのアイデアをうかがいながら、毎年講義をすすめています。今年度も、講義での出会いと学びを楽しみにしています。

[自己紹介] 社会福祉学科で「公的扶助論」の担当をしています。1997年に明治学院で働くようになるまでは、生活保護や高齢者にかかわるソーシャルワーカーとして働いていました。趣味は音楽鑑賞とB級グルメの探求です。楽しみながら、一緒に学ばせていただきたいと思います。どうぞよろしくお願ひします。

[講義担当者] 板垣淑子 (NHK 大型企画開発センター チーフ・プロデューサー)
[講義テーマ] 老人漂流社会－老後の居場所をどう作るのか－

[講義概要] 『歳をとることは罪なのか――』
今、高齢者が自らの意志で「死に場所」を決められない現実が広がっている。ひとり暮らしで体調を壊し、自宅で暮らせなくなっても、病院や介護施設も満床で入れない。こうした高齢者は、一時的に短期入所できる施設や宿泊所などを転々とし続けなければならない。「老人漂流社会」の現実に迫り、誰しもが他人事ではない老後の現実を見つめ、どうすれば安心できる社会が実現できるのか、考えていく。

[自己紹介] 1970年生まれ。
東北大学法学部卒業後、1994年NHK入局。報道局制作センター、仙台局、スペシャル番組センターなどを経て、現在入局21年。主な担当番組は、NHKスペシャル「ワーキングプア～働いても働いても豊かになれない(2006年)」(ギャラクシー賞大賞受賞)、NHKスペシャル「無縁社会～“無縁死”3万2千人の衝撃～」(菊池寛賞を受賞)。

(2) 法律

[講義担当者] 渡邊充 (法学部)
[講義テーマ] 映画にみる税金－租税文化の一側面－

[講義概要] かつてベンジャミン・フランクリンは、“死と税金は必ずやってくる”といいました。そして、この有名な格言が映画の中で隠されたテーマになった作品に、ブラッド・ピット主演1998年の「ジョー・ブラックをよろしく (Meet Joe Black)」があります。日本人は自ら確定申告する機会がほとんどなく、納税意識が低いといわれますが、逆にアメリカではおよそ税を主題としない映画作品の中に、パンチの効いた税に関する台詞がでてきます。本講義は、映画の中に出てくる税のセリフから、租税文化の一面を探るものです。

[自己紹介] 教授。法学部長。大学での担当科目は「租税法」。最近の研究テーマは「判例にみる租税法律主義」です。大学院在学中に税理士資格を取得し、M&Aや大型相続などの特殊事案を担当し、実務家の顔も有します。

(3) 社会

[講義担当者] 浅川達人 (社会学部)

[講義テーマ] 東京大都市圏の空間形成とコミュニティ-社会地区分析とコミュニティ・スタディー

[講義概要] 私たちが暮らしている「都市社会」を考察する視点としては、ヘリコプターに乗って上空から眺める視点と、路地を歩く生活者としての視点の両方が必要です。ヘリコプターでは現在の都市空間の姿しか捉えることができませんが、社会地区分析と社会地図という手法を使うと、過去から今日までの社会・空間構造の来歴を知ることができます。また、都市社会を生きぬく生活者の営みはコミュニティ・スタディーの手法を用いて描き出します。

[自己紹介] 社会学部教授。大学での担当科目は、現代コミュニティ論、社会統計学、数量データ分析、社会構造論研究など。専門は、都市社会学と社会調査。数量データをコンピュータを使って解析するタイプの研究に加え、街を歩き住民の方々の話を聞きながら考察を深めるタイプの研究も行っています。基本は都市社会学者ですが、過疎山村や漁村にも足を運び研究しております。

(4) 心理

[講義担当者] 野村信威 (心理学部)

[講義テーマ] 老年期の心理-生涯発達心理学の立場から-

[講義概要] 高齢化社会の進行にともない、医療・介護・福祉などの現場を中心として高齢者の心理や心理的援助への関心が高まっています。本講義では生涯発達心理学の立場に基づき、老年期における心理について、発達課題、認知機能、パーソナリティ、サクセスフルエイジングなどに関する様々な理論を取り上げ、その面白さを紹介したいと思います。

[自己紹介] 明治学院大学心理学部で生涯発達心理学 (成人・老年)、質的研究法などの科目を担当しています。専門領域は生涯発達心理学、老年心理学です。特に回想法を用いた高齢者の方への心理的援助の効果について研究に取り組んでいます。学生時代からおよそ10年間を京都で過ごしてきました。皆さまどうぞ宜しくお願いします。

(5) 経済

[講義担当者] 池尾恭一 (経済学部)

[講義テーマ] 日本型マーケティングの新展開-囲い込みからオープン型へ-

[講義概要] マーケティングとは、簡単にいうと、顧客のことをよく理解して、製品やサービスが売れるようにするための企業活動です。このマーケティングについて、日本ではいま大きな変化が起こっています。この講義では、そもそも日本ではどのようなマーケティングがなぜ行われてきたのかというところから説き起こし、いまどのような背景のもとでどのような変化が起こっているのかを解説していきます。

[自己紹介] 経済学部経営学科の教授で、専門はマーケティング、消費者行動、流通論です。現在はマーケティング論を中心に科目を担当しています。昨年3月まで、慶應義塾大学大学院経営管理研究科というところで教授をしていました。いわゆる慶應ビジネススクールです。したがって、昨年までは社会人、それもビジネスパーソンを主たる対象とした教育を担当していました。今回は日本のマーケティングの現在の動向を、かみ砕いてお話するつもりです。

(6) 文学

[講義担当者] 嶋田彩司 (教養教育センター)

[講義テーマ] 明治学院校歌を「読む」

[講義概要] 明治学院の校歌は1906年に制作されました。作詞者は本学第一期生であった島崎藤村です。この年、藤村は『破戒』を発表し、これ以降一流作家のひとりに数えられるようになります。一方、この時期、藤村の私生活は相次ぐ子供の死去や妻の病気など、けっして幸福とはいえない状況にありました。明治学院校歌には、そのような藤村の希望と苦悩が反映されています。講義では、校歌にこめた藤村のメッセージを読み取りたいと思います。

[自己紹介] 本学教養教育センター所属。専攻は近世 (江戸) 文学ですが、大学では共通科目としての日本文学を担当していますので、古典、近現代を問わず講義しています。文学作品の読み方はいろいろありますが、作品の背景にそれを生み出した一人の人間を透かしてみると、ひとつひとつのことは声となって立ち上がってくるような感覚におそわれることがあります。きっと「文学」が好きというよりは、「人間」が好きなのでしょう。

(7) 芸術

[講義担当者] 山下裕二（文学部）

[講義テーマ] 日本美術史を愉しむために

[講義概要] 堅苦しく、敷居が高そうな「日本美術史」ではなく、初心者の方にも入りやすい、古美術を愉しむためのコツについてお話ししたいと思います。まずはともかく、作品をよく「観る」こと。しかし、これが簡単そうで、じつは難しい。「知る」ことによって、よりよく「観る」ことができることもあります。講義でそんなことをお話しした後、実際に美術館見学に出かけて、一緒に鑑賞したいと思います。畠山記念館（港区白金台）で、茶道具を中心とした展覧会の見学を予定。

[自己紹介] 文学部芸術学科教授。大学では「日本・東洋美術通史」などの科目を担当しています。若いころ、雪舟をはじめとする室町時代の水墨画の研究からスタートしました。最近では縄文から現代美術まで、ある意味節操なく、さまざまな領域についていろんなメディアで発言しています。著書に、赤瀬川原平氏との対談集『日本美術応援団』シリーズ、『日本美術の20世紀』、『室町絵画の残像』、『岡本太郎宣言』など。

(8) スポーツ

[講義担当者] 亀ヶ谷純一（教養教育センター）

[講義テーマ] 高齢者の健康と体力ー心とからだの元気づくりー

[講義概要] 日本は世界でも経験したことのない高齢化社会に入っています。このような時代を生きるためには各人が自分のことは自分でできる体力と気力が求められています。今回の講義では、暮らしの中で日常的にできる心とからだの元気づくりの方法について運動やスポーツ実践の立場から講義します。

[自己紹介] 教養教育センター教授。大学での担当科目は、健康スポーツ科学、スポーツ科学、スポーツ方法学で専門領域は「コーチ学」です。

I-4

チャレンジコミュニティ大学の思い出

(講師・修了生)

チャレンジコミュニティ大学の開学10年を振り返って

今尾 真 (法学部教授)



港区と明治学院大学の協働連携によるチャレンジコミュニティ大学（以下、CC大学）が、2016年度をもって開学10周年を迎えることを大変喜ばしく、おめでたいことと思います。全国の大学に先駆けて新しい学びの形、すなわち社会で活躍した方々の経験・知識および活力を地域社会であらためて役立てるべく、行政と大学が協働連携して、地域社会におけるリーダーを育成するという教育目標を掲げたCC大学を世に問い、今年で10年を迎えたということは、この企画が大成功であったと感じております。2007年度の第1期生から2016年度の第10期生までをあわせると、約600名の本大学修了生を港区の各地区に輩出することになり、そこで彼らが様々な活動や活躍の場を広げていることを耳にすると大変嬉しく思います。

さて、CC大学10年の歴史を振り返ってみますと、各期のどの学生も、地域に貢献したい、あるいは地域に対して恩返しをしたいとの熱い思いをもって、本学の門を叩いた方が多かったように感じております。また、春と秋の懇談会または箱根宿泊研修会で、各自が地域の課題を発見し、それにどう対処するか、また修了後にどのような活動を実践していくかなどを真剣に語り合い、時には思いあまって白熱した議論が展開されたことを思い出します。さらに、講義では、多くの学生達が真摯にかつどん欲に知識を学ぼうとの姿勢にみなぎっていたことも印象的でした。60名の学生を前にして、何事も聞き漏らすまいと光り輝く幾つもの瞳に接したとき、その迫力のすさまじさに圧倒されること、しばしばでした。こうした学生達に触れることにより、自身をさらに研鑽し、学生の向学心を高める工夫もつとしなければ、との思いを新たにさせられたのも事実です。CC大学の講義に、学びと教えの原点を見出し、講義終了後に何ともいえない爽快感を感じる事ができました。わたし自身、開学当初から、河合克義先生とともに、このCC大学にグループアドバイザーとして関わる事ができたことを大変幸せに感じております。

CC大学開学10周年を契機として、これまでの検証と次の20周年に向けての基盤をさらに整備するとともに、この取組みがより拡大され、地域社会に貢献するリーダーの育成ということにとどまらず、大学に地域の有為な人材を取り込み、港区と区民そして大学と若い学生達の4者が一体となって、「ともに生きる地域社会の構築」を考え、学ぶCC大学へと発展することを願っております。

最後に、CC大学を全面的にバックアップくださっている武井雅昭港区長はじめ港区の関係者の方々、明治学院大学歴代学長および関係教職員の方々に、心より感謝の念を捧げます。

CC大学での楽しい思い出

清水浩一 (社会学部教授)



私は毎年、7月と12月の年2回、施設見学の一環として横浜市の大磯町に皆様をお連れしています。また11月頃には貧困や社会的排除に関する講義も1回担当しています。さらに私はグループアドバイザーとして、担任のような役割もつとめてきました。その関係で入学式や卒業式への出席、夏と冬のグループ懇談会などに参加してきたため、記憶に残る学生もたくさんいます。その中で特に思い出となっている出来事を紹介したいと思います。

秋に私が担当する講義で、貧困が広がって生活保護の受給者が増加しつつあるが、これは経済や社会の大きな歪によるものであり、決して貧困者個人の自己責任に帰してはならないという趣旨の講義でした。皆さんは、若い学生のような私語もなく、私の話を真剣に聴いてくれました。しかし一か月くらい経った12月の忘年会の時でした。料理も美味しく、(大年配の)女子学生に囲まれて楽しい気分になっていたら、一人の男性が私の側に来て話があると言います。聞いてみると「先生は貧困者の責任を問うてはならないと講義で話していたが、私は全く納得できない」と言うのです。その理由として彼が知っている生活保護受給者は皆、自分たちのモラルを基準にすると問題のある生活を送っている。生活保護の受給者が全て問題とは言わないが、多くはどこかに問題のある人が多い。むしろ問題があるから結果として生活保護を受給することになったのではと考えるのがいかがか、というのです。女子学生に囲まれてせつかくの楽しいひと時でしたが、彼の疑問点に答える義務があると私は考えました。確か次のような例を出しながら話したと思います。経営危機に陥った会社のリストラにあって失業したら家のローンの支払いも滞り、それがきっかけで家族が崩壊し、一家のご主人はホームレスに転落したとする。この場合、失業したお父さんをモラル的に責められるだろうか、という例だったと思う。しかし私の力不足で、彼を翻意させる事ができなかった。でも真剣に本音で疑問をぶつけてきた彼に私は敬意を表しました。同時に、こうした「生活者感覚」を尊重しつつ、説得力を持って講義することの難しさを改めて痛感させられました。おそらく現実的な「生活者感覚」に少しだけ異なる考え方・ものの見方を提案するのがベターであり、大上段に構えた理念や理想をいくら声高に叫んでも、人の心に訴えることはできないのでしょう。

もう一つ、心に残る楽しかった思い出を付け加えよう。毎年2月に箱根で宿泊研修があるが、その帰り道、バスの中で全員「青い山脈」を合唱。私も珍しくテンションが上がり、同世代との交流の価値が素晴らしいものだと改めて感じたものでした。若い世代との交流は未知の領域への「ワクワク感」があるが、同世代間の交流はそれこそ「共有」と「癒し」があることを実感しました。

チャレンジコミュニティ大学みなさんに期待すること

和気康太（社会学部教授）



チャレンジコミュニティ大学（以下、CC 大学）の 10 周年を心からお祝い申し上げます。

私は、社会福祉学科の教員として、CC 大学の活動当初の頃はグループアドバイザーのひとりとして参加させていただきましたが、ここ数年はその活動にほとんど参加していませんでした。

今年度、久しぶりに CC 大学のグループアドバイザーとなり、受講生のみなさんと一緒に時間を過ごすと、私の記憶に残る、以前の受講生の方々よりも、さらに一段と逞しくなっていて、いま大変に頼もしく思っています。

私は若かりし頃、といってもすでに 30 歳代後半になっていましたが、カリフォルニア大学パークレー校の社会福祉大学院（School of Social Welfare）で、アメリカの高齢者保健福祉サービスに関する研究を行っていたことがあります。そして、その研究の一環として、ベイエリア（サンフランシスコ、パークレー、オークランドなどの地域一帯をいいます）の高齢者保健福祉関連の機関・施設・団体などで、ヒアリング調査などのリサーチをしていました。

アメリカの福祉は、福祉国家の国際比較研究などではいつも“劣等生”で、悪しき福祉の典型例として語られます。確かにスウェーデンなど、北欧諸国のような“優等生”と比較すれば、政府支出に占める社会保障関係費の比率などは低いので、その指摘は正しいといえます。しかし、その一方でアメリカは、ボランティア活動や、NPO（非営利組織）の事業・活動も盛んで、そうした「シャドウワーク」を含めると本当に“劣等生”なのかという疑問を、私はもっています。

事実、私が当時、シニアセンターなどで出会ったアメリカのシニアの方々は、とてもお元気で、地域のボランティア活動などにも熱心に取り組んでいました。私はアメリカへ行った当初、英語がうまく話せなかったため、大学院で研究をしながら、キャンパスの近くにある YMCA で、シニアのボランティアの方に英語を教わっていました。また、その方はお一人暮らしということもあり、時々私をご自宅に招待してくださり、美味しい夕食をご馳走していただきました。こうしたアメリカ社会の“おもてなし”は、いまでも私のとても素晴らしい記憶として残っています。

一方、私が日本へ帰国すると、たとえば仕事をリタイアした男性を「粗大ゴミ」、「濡れ落ち葉」などと言って揶揄する風潮がまかり通っていて、日本とアメリカの高齢者文化の違いに愕然としました。気づくと、それから随分と時間が経ち、日本でもさすがにこうした表現をする人たちは少なくなったような気がしますが、それでも日本全体で見ると、まだまだ日本の高齢者は、社会の「お荷物」のような言い方をされることが多く、本当に残念に思っています。

私は CC 大学とは日本における、いわばこうした風潮を変革することに文字通り、チャレンジする「人財」を育てる大学であると思っています。いまは、日本のプロ野球選手がアメリカの大リーグで大活躍する時代になりました。アメリカは、もうわれわれの手の届かない国ではなくなりました。私は、それは高齢者の領域でも全く同じであると思っています。アメリカの高齢者文化に学びつつ、日本の高齢者が、最後まで地域でアクティブに、クリエイティブに、プロダクティブに生きていく。みなさんにはぜひそういう“先駆け”になっていただきたいと考えています。

長い人生を再設計する！

明石留美子（社会学部教授）



こんにちは。チャレンジコミュニティ大学が今年で 10 年目を迎えられたことをたいへん嬉しく思っています。私は、3 期よりチャレンジコミュニティ大学の第 3 グループの皆さまと一緒に過ごさせていただいておりますので、今年で 8 年目となります。

日本は世界で最も高齢化の進んだ国であることは周知の事実です。少しデータを挙げますと、日本の 65 歳以上の高齢者の人数は 3,390 万人（2015 年）であり、日本の総人口（1 億 2,700 万人）における高齢者の割合は 26.7% と、すでに 4 人に 1 人が高齢者です。さらに 1947～1949 年に生まれた団塊の世代およそ 810 万人が 2015 年より 65 歳に到達しているため、出生率の低下とも相まって、社会の高齢化はさらに進んでいきます。また、1950 年から 2010 年の高齢者人口割合の推移を見ると、スウェーデンでは 10.2% から 18.2%、フランスでは 11.4% から 16.8%、アメリカでは 8.3% から 13.1% に増加した一方で、日本では 4.9% から 23.0% へと大きく進み、日本の高齢化の速度は欧米諸国に比べると非常に速いことがわかります。また、男性の現在の平均余命は 80.5 年、女性では 86.8 年と、80 年を超えており、1950 年の男性 58.0 年、女性の 61.5 より 20 年以上も延びています。

少子高齢化が進む中で、この長くなった人生を私たちはどのように過ごしていけばよいのでしょうか。確かに介護を必要とする方々、日々の暮らしに苦勞されている高齢の方々がいらっしゃるの事実です。しかし、チャレンジコミュニティ大学の皆さまのように、健康で気力に満ち、アクティブに活動されている方々が多くいらっしゃるのも事実です。高齢という言葉から一般的に連想されるのは、寂しい、老化、介護、病気、役割の喪失など、ネガティブなイメージではないでしょうか。しかし、これまでの調査では、高齢者の多くは若い人たちより幸福感を感じていることが明らかになっています。調査では、最も幸福感の低い年代は 20 代であるといわれています。20 代の人々には活力があり、様々な機会に恵まれますが、何をすべきか決断を迫られることが頻繁で、他人の目に敏感な時期にあるため、落ち込んだり最もストレスを感じる年代といえます。一方、高齢期の人々には精神的な安定感、これまで様々なライフイベントを克服してきた強さと対応力があります。

現行の年金制度は平均余命の短い時期に始まりました。厚生年金保険の前身である労働者年金保険が開始したのは 1942 年、国民年金制度が施行され、国民皆年金体制が整えられたのは 1961 年です。数十年延長した定年後の生活を年金と貯蓄だけで支えていくのは困難です。長くなった生活を楽しむ送っていくには、経済面だけでなく、様々な面で現状に見合った改革が必要です。少子高齢化が進む日本には何が必要か、人々が高齢になっても安心して生活していくためには何が必要か、チャレンジコミュニティ大学の皆さまと本気で考えていきたいと思っています。

■ 地域活動のリーダーになれるだろうか

1期 岩村道子

高齢者には晴れがましいほどに盛大な CC 大学開校式では、区長はじめたくさんの方から 1 期生への期待と要望に満ちた祝辞がありました。その期待に応え地域活動のリーダーにならない、という気持はその後 1 期生の殆どが頭の隅に置いてきたと思います。

盛り沢山の講義を聞くだけで、私たちは果たしてリーダーになるべく成長できるかと話し合ったりしました。大学理系出身の私にとっては、すべての講義が新鮮で社会福祉や港区の現状などについて、たくさんを知ることができました。貸し切りバスで東京国立博物館法隆寺宝物館に行ったことも楽しい思い出です。山下裕二先生の「ゆっくり眺めてあなたの好きな仏さまをいくつか見つけてください」というお言葉が印象に残っています。以来「ゆっくり眺めて好きなものを」は私の生き方の基本となりました。

■ 居場所づくりとチャレンジコミュニティ大学

2期 吉田由紀子

CC 大学での一年間、幅広い分野での講義はどれも充実した内容で興味深いものでした。なかでも社会福祉の講義は深く心に刻まれました。修了と同時に興味をもった「市民後見人養成講座」を受講し、現在は、某法人の後見業務の一端を担い、被後見人に向かい合い話を聞くことにやりがいを感じています。一方で、高輪地区 CC クラブの活動で「コミュニティ・カフェ高輪」の運営に参加し、3 年目を迎えました。カフェに来てくださる地域の人々と楽しく交流することで地域コミュニティの活性化に繋がると考えています。

被後見人の方との出会い、カフェでの人との交流、私にとっては我が家に次ぐ第二、第三の居場所となっています。人は誰でもいつでも自分の居場所を求めていると聞いたことがあります。私は CC 大学で学んだことで自分の居場所づくりが出来たと思っています。

■ 黒田先生の後見人制度の授業

3期 雨宮武

我々 3 期生は 60 名中高輪地区が 41 名で、男女比率は男性 18 名、女性 42 名の構成であった。社会福祉学は興味を持つにはなかなか困難な学問である。時々頭を休める音楽・文学・体操等の授業は皆楽しんでいる様だった。福祉の授業の中で特に記憶に残っているのは黒田先生の後見人制度の授業であった。行く行くは我々も必要になるであろうと思うと興味が湧いた。また先生が熱心で、声も大きく眠ってはいられなかった。時々在学生と一緒にいる場合があった。在学生は結構寝ていた生徒が目についた。高い授業料払って学校へ来ているでしょうから、これでは勿体ない。しかし、若い人と一緒に授業を受けていると青春時代が甦り、高齢者に取ってはリフレッシュする。

これからも若い人と接触し、友達になり自由な発想で意見交換の機会があれば有意義である。

■ チャレンジコミュニティ大学は意義ある時間でした

4期 鈴木豊子

CC 大学で学んでから早 6 年、記憶をたどってみると、福祉の問題、子育て支援、相続に関する法律、美術や文学の講義、港区に関する行政の知識、多岐に渡っていた様に思います。特に体育の時間、体育館での実技指導は、自分の基礎体力を知り、日々の暮らしの中での体力の高め方などは、意識をして体を動かしていなかった私には、とても意義のある授業でした。秋に行われた明治学院大学戸塚校舎周辺のハイキング、まるで遠足に行った時の子供の気分になり、心身ともにリフレッシュ出来、仲間との距離も近くなり、更に、結束も強くなりました。箱根の宿泊旅行も印象深いものでした。卒業式の前日に起こった東日本大震災は忘れることが出来ません。私達の修了式は中止になり残念でしたが、被災された方々への思いに替え、今も続く良い仲間との交流は、共に学んだ一年間の成果と感謝いたします。

■ チャレンジコミュニティ大学の思い出

5期 水谷久美子

私は 2011 年 4 月から CC 大学の講座に参加し、久しぶりに学生気分を体験しました。初めに一年間のカリキュラムを見た時のイメージでは、経済学や法律の講義に興味があったのですが、実際に講義が始まってみると身近な社会福祉やボランティアの話、また港区の区政の話など幅広い分野の充実した授業で、本当に有意義な一年間だったと思っています。今はその時のクラスの仲間と一緒に地域ボランティア活動をしています。具体的には港区内の介護施設を訪問して、利用者の皆さんと一緒に歌を歌い、ピアノを弾いたり朗読したり、仲間と楽しみながらの活動を続けています。歌う曲はだんだんと歌われなくなっている文部省唱歌や流行歌です。今、振り返ると私は学生時代からずっとコーラス部で歌ってきたので、いつまでも歌い続けられたらまさに満たされたセカンド・ライフになっていると実感しています。

■ チャレンジコミュニティは何より大切な宝物

6期 小倉徳子

授業の思い出は山ほどありますが、①原発問題を『エネルギーと社会』というテーマで掘り下げた学習で、必要悪と正面から向き合う取り組み方を考えさせられたこと、②『成年後見制度の現状と課題』において、認知症などで判断能力が一人前でない状況の時、社会との橋になってくれる成年後見人制度の問題点や、私が望む姿を考えられたことが、有難さとともに特に印象深く残っています。CC の価値は学習だけではありません。私の老後の人生は、ここでできたネットワークのおかげで大激変したのです。マンション暮らしの専業主婦だった私に地元の学友ができ、今や、あちこちでボランティアをさせて頂き、遊びや色々お声がけ頂く幸せな人生は、みんな CC のお陰です。芸術的なこと、体育的なこと、みんな楽しい学びでしたが、地元のぬくもりに参加できたことには感謝ばかりです。

■あの時の興奮を忘れない

7期 管美知子

小樽の高校を卒業し地方の会社で働いて来た私にとって、東京・白金にある大学のキャンパス内をひとりの学生として闊歩出来た事は大きな喜びであった。いつも一番ノリで職員さんを待ち、真中の列の前から三番目の席を確保した。授業のある日を心待ちにした。

40年間仕事だけでコミュニティとの関わり方が分からなかった私にとって、CC大学で学ぶ福祉の授業は有難かった。今は町内の行事には積極的に参加し、又、町会のお年寄りを対象とするサロンを開催しています。私のグループ内の年齢差は30歳以上あるがとても上手くいっております。このCC大学で初めて出会い、その経験と人物を認め合える事は、とても素敵な事に違いありません。「東京を学ぶ」と題し在学中に始めた「街歩き」は10月で30回を数えました。グループの皆さんに、リーダーに、明学に、港区に心から感謝です。

■気分は女子大生

8期 宮下玲子

若さの秘訣は、常に何かに感激しワクワクした気持ちでいることだとか。還暦を過ぎて、その感覚を味わうことができたのがCC大学です。中でも巖谷先生の『港区の風景と文化』の講義では、生まれ育ったこの地域に対する先生の熱い思いが感じられ、深く印象に残りました。明治学院チャペルや高輪の教会はもちろん、長年住んでいながら気にも留めなかった建物や坂、階段、路地などからも改めて港区の歴史の重みを感じさせられる授業でした。

箱根の宿泊研修においては、クラスメートと飲んで語り合い、まさに気分は女子大生。貴重な時間を過ごすことができました。良き先生方、そして良き友達に巡り合えたあっという間の一年でした。CC大学の修了生として今できることを模索しながら、これからもワクワクドキドキに挑戦していきたいと思えます。

■修了生に共有されている貴重な思い出

9期 伊豆村房一

第9期修了式から7カ月が過ぎました。一つ一つの授業の記憶は薄れつつありますが、先生方が示された熱意やそれぞれの個性、持ち味は記憶に残っています。体育実習、施設見学、自然散策、美術・音楽鑑賞、箱根の宿泊研修など、もう何十年もやっていないことを大学現役の指導者の下で体験することができたことは忘れられません。それぞれかけがえのない貴重な思い出として修了生に共有されていると思えます。同期第1グループでは、「ツキイチ会」と称して月に一度のペースで集まり、旧交を温めています。すでに地域貢献活動を始めているメンバーもいます。今後とも思い思いの語らいを通じて、地域貢献につながる活動範囲を広げられるようになればと考えています。こうした気軽に親しい語らいができるのも、CC大学修了生として共に学び、さまざまな経験を共有できているからだ感謝しています。

第Ⅱ部

チャレンジコミュニティ・クラブ 活動と報告

チャレンジコミュニティ大学 10 周年で改めて思うこと

チャレンジコミュニティ・クラブ代表 齋藤正精



いきなり人生後半の幸福論を決めつけるみたいで大変恐縮ですが・・・多くの人にとってはなんでも気楽に話せる気のあう友人に囲まれ、ときには時間を忘れられる趣味に没頭でき、さらに社会に貢献できる活動の場に参加できる居場所が見つけれられるといいに違いない! 勿論健康や家族に恵まれ経済的余裕も前提ですが、質の高いセカンドライフを求め自己実現しようと思うと心地良い居場所をいかに多く作れるかが重要だと思います。その意味で港区が 10 年前に開始したチャレンジコミュニティ（以降 CC と略する）大学は 1 年間の学生生活を楽しみながら人生後半の居場所を見つけるにはとても良い修学の場と機会を与えてくれます。

この春に CC 大学は 10 期生を迎えました。10 年ひと昔とよく言われますが何事も 10 年継続するという事は素晴らしいことです。それは CC 大学が生涯学習の場として港区に定着し地域コミュニティ発展の一翼を担うようになってきているからだ日々感じるこの頃です。明治学院大学での 1 年は学生時代を彷彿させ、60 代～70 代に再び学園とキャンパスでの楽しさを満喫させます。同期生と席を並べアカデミックな雰囲気の下、自由闊達におしゃべりや講義を楽しみ勉強できるなんてなんて幸せなんだろう。シニアにとって地元で新しい知己を容易に得られることもありがたいです。

修了後には同窓で構成される CC クラブの活動に自由に参加できる体制が築かれています。同期生だけでなく同窓全体で自然とつながりができ連鎖となって絆がうまれる。期にかかわらずすぐ知り合いが出来、つぎつぎ人の輪ができて何という素晴らしいクラブ組織だと感激しております。近所を歩いていると CC 大学や CC クラブで知った顔によく出くわす。こんにちは! 取り留めのない会話をし買い物など用事を済ますのである。何気なく歩き知人と出会い会話するというのは都会では珍しくこの港区に現実に起きていることにびっくりする。

CC クラブもこの春に 500 人近くの組織になって会員の活動は多岐にわたっている。様々な形で 200 以上のグループが構成され地域に密着しており、近年その活動は区民に広く受け入れられてきている。コミュニティ・カフェやウォーキング・イベントなど行政との協働も活発で、プロジェクトの企画から実施までの重要な役割を担当し期待されるようになってきている。ただリーダーシップを持って地域活動を推進すると言うのはやさしいがハードルが高いことは事実です。周囲を見ていると自分の価値観で多くをやろうとすると無理が生じてなかなか継続できない。リーダーは活動的であること、強い意志や主体性をもちながら人との折り合いを付けられることも要求され難易度が高いです。CC クラブでは各個人ができる範囲で無理をせず活動に参加していくことが定着しており、会員が協力しあって総合力で成果を挙げていくことができる運営基盤ができてきています。

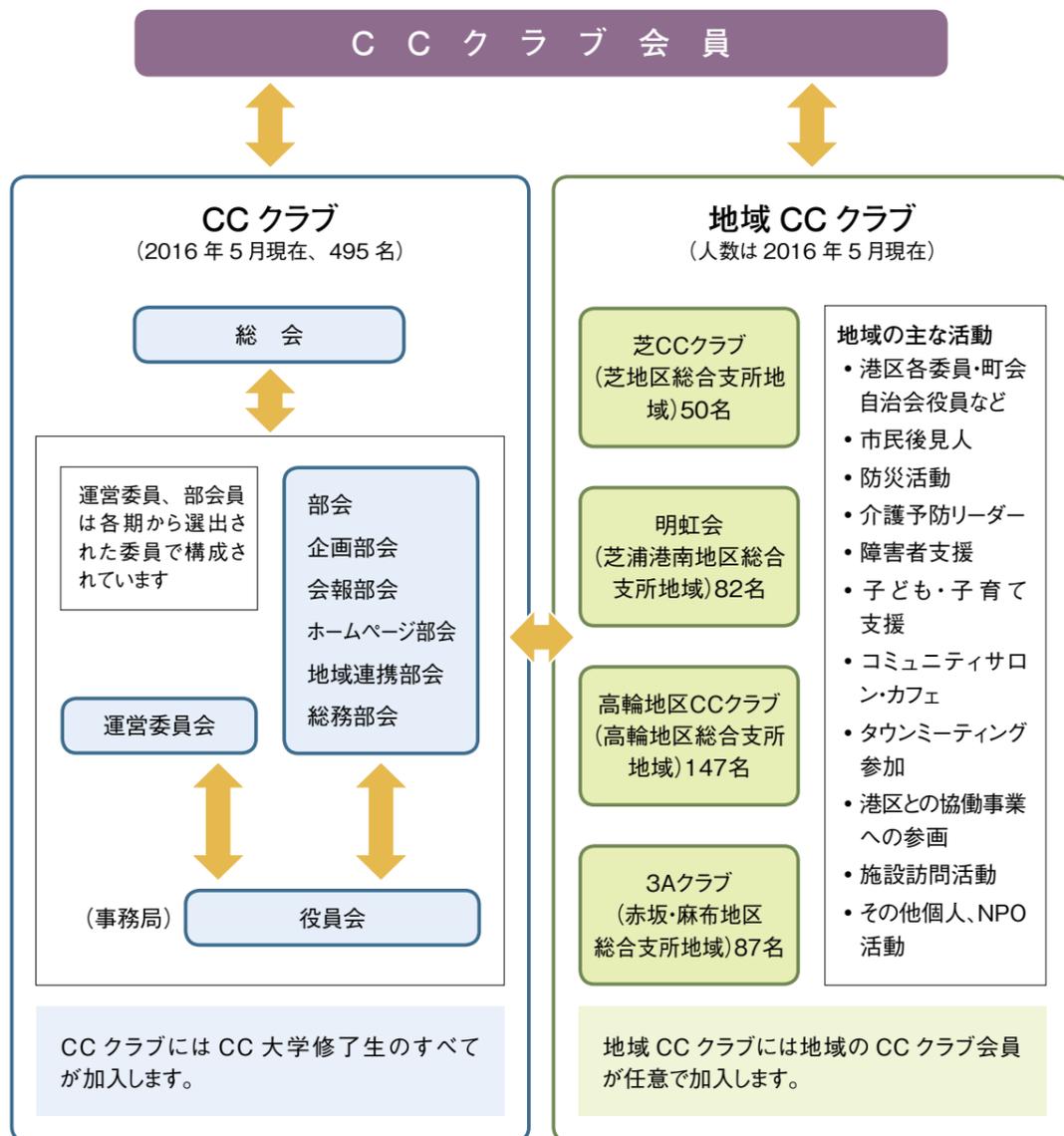
今後もその名のとおりチャレンジ精神を失わないでクラブの運営や活動を推進していきたいと思っております。

チャレンジコミュニティ・クラブとは

2008年3月、第1期生の修了を機に自主的な運営組織として、チャレンジコミュニティ・クラブ（略称CCクラブ）が創設されました。

CCクラブは、会員相互の情報交換を図るとともに、CC大学で学んだこと及び各自の社会経験を活用することにより、コミュニティの醸成・維持・発展に向けた地域活動を推進し、住みやすい地域の実現に寄与する事を目的としています。また、港区の街づくりや地域ネットワークの構築を支援し、地域活動を通じてリーダーを育成し、そして、会員は充実した人生を送り、広く社会に貢献していきます。

CCクラブは、各個人、グループそして運営部門の活動として、港区、大学、NPOとの協働プロジェクトへの参画、社会福祉団体、町会・自治会等への参画を推進するとともに、地域活動に関するタイムリーな情報提供、そして社会への広報活動や会員相互の交流活動などを行っています。地域CCクラブは各地域に関わる活動をCCクラブ会員に限定せず、地域住民の参加を積極的に推進する活動を行っています。



チャレンジコミュニティ・クラブこれまでの主な活動 (CC通信からみた9年間)

CC大学1期生修了後の2008年4月にCCクラブが発足し、それ以降、CCクラブ会員個人、グループそしてCCクラブ全体の活動をCC通信で会員にお知らせしております。今回、CC大学10周年報告書を刊行するにあたり、CC通信の記事をもとに過去9年間のCCクラブの主な活動を掲載いたします。誌面の都合で詳細をお知らせすることが出来ませんので、詳細をご覧になりたい方はバックナンバーでご確認ください。バックナンバーは、創刊号から最新号までをCCクラブホームページ会員サイトに、26号（2014年10月発行分）以降を一般サイトにも掲載しております。

2008.4～2009.3（創刊号～4号）

- チャレンジコミュニティ・クラブの創設（創刊号）
- 初年度会員（創刊号）
世話人代表 八木嘉也
運営委員9名、会員数59名
- 第1期修了生の声（創刊号）
- チャレンジコミュニティ通信の発行（年4回）
- 映画上映会「いのちの作法—沢内『生命行政』を継ぐ者たち」研修旅行のプレ講座（2号）
2008年8月2日（土） 明治学院大学 2号館2301教室 参加者50余名
挨拶 CCクラブ 八木嘉也世話人代表 河合克義チャレンジコミュニティ大学総括コーディネーターの解説
岩手県旧沢内村の紹介と老人医療制度の歴史の解説
- 岩手県旧沢内村ツアー報告（2号）
2008年9月17日（水）～18日（木）
岩手県旧沢内村（現和賀郡西和賀町）



旧沢内村研修会の参加者

- CCクラブ会員の活動報告（2号）
・私のボランティア活動 1期 塩見幸子
・サイエンスカフェイン高輪の活動について

- 1期 岩村道子
・第3グループの活動報告
- 1期 古橋義弘
- 港区社会福祉協議会訪問記
1期 吉田秀博（3号）
- CCクラブ会員の活動報告（3号）
・私のボランティアとの関わり
1期 原澤芳子
・科学マジッククラブの活動紹介
1期 小林政雄
- CCクラブ講習会報告（3・4号）
第1回「高齢者サービスについて—在宅支援を中心に」、「これからの高齢者地域福祉」
2008年10月29日（水）15:00～17:00
明治学院大学 2号館2302教室
講師 港区保健福祉支援部高齢者支援課 在宅支援係 長瀬伸一主任 海津美江主任 高輪地区総合支所くらし応援課 西津雅子課長
- 第2回「ボランティア活動の実践—あなたにとってボランティアは何色—」
2008年12月8日（月）
講師 明治学院大学 社会学部附属研究所 ソーシャルワーカー 平野幸子氏
- 第3回「ともに生きる地域社会を築いていくために—障害のある人の地域生活を理解する—」
2009年1月21日（水）15:00～17:00
明治学院大学 本館10階大会議室
講師 愛知淑徳大学医療福祉学部 谷口明広教授
- シンポジウム「コミュニティづくりとチャレ

ンジコミュニティ・クラブ」と交流会報告

・シンポジウム
2009年3月5日(水) 15:00～17:00
明治学院大学 2号館2階教室
出席者約70名
「コミュニティづくりとCCクラブ」

CCクラブ一年間の活動報告、各グループの報告そして2期生も含んだ会場からの質問と地域連携推進室をはじめとした関係者からの回答

・交流会 17:30～20:30 本館10階

- CCクラブ会員の活動報告(4号)
- ・私がこの1年間に取り組んできた事の報告
1期 明石美穂子
- ・私の地域コミュニティ活動報告
1期 江原一弥

2009.4～2010.3(5号～8号)

- 運営委員の選出(1期、2期)(5号)
世話人代表 八木嘉也
各グループ3名 合計18名
- 第2期 修了生の声(5号)
- 岩手県旧沢内村研修報告(6号)
2009年9月3日～4日
岩手県旧沢内村(現和賀郡西和賀町)
1日目
深澤晟雄資料館見学、太田祖電(元村長)氏講演、高橋典成(NPO法人輝け「いのち」ネットワーク代表)氏講演
2日目
光寿苑見学、光寿苑 太田宣承副苑長講演、長瀬野新集落見学、長瀬野の方と昼食、懇談
- 第2期生活動報告(6号)
・第1グループ(CC21) 2期 西野文子
・第2グループ(「みなトーク」会)
2期 樋口賢一
・第3グループ(Club 3MC)
2期 川野和彦
- OKAMOTO「サロン」Newsからー1期生2グループ機関誌ー(7号)

- CCクラブ会員の活動報告(7号)
- ・男の料理教室 1期 雨宮範夫
- ・初心者のための「パソコンたまり場」
1期 五十嵐武
- ・私の子育て支援活動 1期 井林靖雄
- ・緑のカーテン・サポーター
1期 飯塚洸子、1期 坂下妥子
- ・生け花とお茶とマナー 1期 福島君子
- ・私の高齢者支援活動 2期 青木みよ
- ・青少年対策三田地区委員会の一員として
2期 上野良子
- ・福祉施設でコンサート 2期 仲島泰子
- ・「ボランティア」のこと 2期 佐藤恵子
- ・コミュニティサロンのサポーター CCクラブ参加者12名 1期 飯塚洸子

- CCクラブ主催講演会報告(7号)
- 1. 「都市高齢者の孤独問題と社会的ネットワーク日中比較」
2009年10月21日(水)
講師 山東工商学院社会学科研究所 林明鮮教授
- 2. 「隣人としてできることから」～DV被害者支援に関わって～
2009年11月11日(水)
講師 NPO法人男女平等参画推進みなと(GEM) 船尾豊子事務局長

- CCクラブ主催講演会報告(8号)
- 「みんなで支えあう福祉のまちづくりを目指して」
2010年1月27日(水)
講師 NPO法人「ぐるーぶ藤」 鷲尾公子理事長

- 2009年度「CCクラブ活動報告会とシンポジウム」と交流会の報告(8号)
2010年2月27日(土) 明治学院大学 2号館
港区 武井雅昭区長、区議会議員、明治学院大学 大西晴樹学長、社会学部 河合克義教授と講師、CCクラブ会員、CC大学3期生
参加者122名
・挨拶 CCクラブ 八木嘉也世話人代表、

- 港区 武井雅昭区長、
明治学院大学 大西晴樹学長
- ・活動報告 2009年度CCクラブ活動総括 米永栄一郎(1期)
- ・シンポジウム 2009年度の「活動状況と今後」
明治学院大学 河合克義教授、小林政雄(1期) 安藤洋一(2期) 青木稔(2期)



報告会会場と報告者

- ・フロアとのディスカッション
- ・挨拶 高輪地区総合支所 斎藤博課長
- ・交流会 1・2期会員、3期生と来賓94名が参加
- 修了後2年の「いま」-1期生各グループより-(8号)
- ・笑顔に逢いたくて 1期生第1グループ
- ・OKAMOTO「サロン」NEWSからー会員の近況などー1期生第2グループ、岡本多喜子先生
- ・「シルバーライフ曼荼羅」より<他人事ではなく、自分事として参加する>
1期生第3グループ(トリプルC)

2010.4～2011.3(9号～12号)

- 運営委員の選出(1期～3期)(9号)
世話人代表 八木嘉也
各グループ2名 合計18名
- 第3期 修了生の声(9号)
- 第3回岩手県旧沢内村研修会報告(10号)
2010年9月12日～13日
岩手県旧沢内村(現和賀郡西和賀町)
1日目
深澤晟雄資料館見学、増田進(元沢内病院長)氏講演、高橋和子(NPO法人輝け「いのち」ネットワーク代表)

氏講演
2日目
ワークステーション湯田・沢内(障害者支援施設)見学、照井洸(西和賀町森林組合長)氏講演、高橋典成(施設長)氏講演

- CCクラブ会員の活動報告(10号)
- ・忙中歓あり 1期 篠崎つたえ
- ・2年目を迎えたみなトーク会
2期 安藤洋一
- ・「キワニス・ドール」をご存知ですか?
3期 山根幸子
- ・声に出して本を読むことで、つながりたい・・・朗読ボランティアを目指して活動しています。 2期 久津弘子
- CCクラブカミングデイ(同窓会)報告(11号)
2010年10月28日(水)
明治学院大学 教室及び記念館
地域ごと6グループ(高輪A、高輪B、高輪C、赤坂・青山・麻布、芝浦・港南、芝)
- に分かれ地域交流会を開催しその後茶話会
- CCクラブ会員の活動報告(11号)
- ・「北川清一先生のお話を聞く会」を開催して 2期 細井典子
- ・OKAMOTO「サロン」勉強会 テーマ「妻を介護する夫たち」1期 吉田秀博
- ・旧沢内村「ふるさと交流会」に参加して 1期 飯塚洸子
- ・講演会 高齢社会の課題「老人介護の現状、問題点、今後望まれる認知症対策」を聞いて 1期 坂下妥子
- 2010年度CCクラブ「活動報告とシンポジウム」～コミュニティへの挑戦と創造～(12号)
2011年2月26日(土)
明治学院大学 2号館 2302教室
港区 武井雅昭区長、区議会議員、明治学院大学 大西晴樹学長及び指導教授、CCクラブ1～4期会員、参加者合計115名
- ・挨拶 CCクラブ 八木嘉也世話人代表、港区 武井雅昭区長、明治学院大学 大西晴樹学長
- ・活動報告 2010年度CCクラブ活動報告 清水英武(3期)

- ・シンポジウム
「若い世代にとっての家族と地域社会」
シンポジウム参加者
東日本国際大学福祉環境学部
菅野道生准教授、1期 井林靖雄
2期 吉田由紀子、3期 坂上宗男



活動報告会とシンポジウム会場

- CCクラブ会員の活動報告
～民生・児童委員特集～ (12号)
・民生・児童委員の“しごと”
1期 桑原水枝
・民生・児童委員になって
1期 吉山昌志
・6年間の民生委員活動をふりかえって
3期 坂上宗男
・高齢者を大事にする地域社会づくりを!
2期 野口美津子
- 第2回 CCクラブ主催講習会 (12号)
2011年1月26日
明治学院大学 2号館 2302教室
『60歳からの楽々サバイバル』～災害時に空白の3日間を生き延びる～に参加して
4期 徳竹道子

2011.4～2012.3 (13号～16号)

- 運営委員の選出 (1期～4期) (13号)
世話人代表 青木稔
各グループ2名 合計24名
- 第4期 修了生の声 (13号)
- 東日本大震災発生 (3月11日) により3月12日の修了式が中止 (13号)
CC通信13号に「修了生代表の挨拶」(久保一雄)と、1期～3期の9名の3月11日の経験談を掲載
- CCクラブ作業室の開設、CCクラブホー

- ムページをリニューアル (13号)
- CCクラブカミングディ(同窓会)報告(14号)
2011年7月15日(金) 明治学院大学
講演会 100名 交流会 88名
講師 NHK ラジオ 村上信夫氏
交流会 各期の仲間と交流
- CCクラブ会員の活動報告 (14号)
・芝CCクラブ活動報告 3期 新井隆治
・芝浦港南台場エリアCCクラブ『明虹会』報告 4期 伊藤文子
・第4期生「チャレコミ4」活動報告
世話人石井、伊藤、島崎、村松、村井、平岩
・「みなトーク」会の3年目の活動～さらに深く、大きく、広がる輪～
2期 久津弘子
・[地域のつながり創り活動]
3期 荒澤経子
・パーキンソン病の知識を得る会
2期 田口博子
- CCクラブ主催「講演とパネルディスカッション」～成年後見制度とは何?その上手な利用とは 私たちにできることは～ (15号)
2011年10月19日(水) 14時から
明治学院大学 2号館 2302教室
港区議会議員 CCクラブ会員、5期生、合計75名
基調講演
明治学院大学法学部 黒田美亜紀准教授
品川成年後見センター 齋藤修一所長
パネルディスカッション
同2名、社会福祉士 築田晴氏、明治学院大学法学部 今尾真教授
- 佐久総合病院研修旅行報告 (15号)
2011年11月13日(日)～14日(月)
長野県佐久市佐久総合病院
1日目
講演会 佐久総合病院のこれまでの歩みと現状 元小諸厚生病院事務局次長 依田発夫氏
懇親会 依田先生を交えての懇親会
2日目

- 講演会 「佐久総合病院における地域ケア活動の実践」佐久総合病院 夏川周介統括院長
見学会



佐久総合病院

佐久総合病院
研修旅行参加者

- CCクラブ会員の活動報告 (15号)
・文部科学省主査「全国生涯学習ネットワークフォーラム2011」に参加して
1期 米永栄一郎
・文部科学省主催の講演生涯学習制度の強化充実にチャレンジしよう!!
2期 野口美津子
・コミュニティ・サロンのサポート
4期 鈴木豊子
・「手話を学び始めて」 3期 角南澄子
- CCクラブ2011年度「活動報告とシンポジウム」(16号)
2012年2月25日 明治学院大学 2号館 2302教室
港区 武井雅昭区長、港区議会議員、明治学院大学 大西晴樹学長及び指導教授 CCクラブ会員 (1～5期) 合計118名
特別講演 被災地の復興と地域コミュニティの再生～3.11の津波は私たちに何をもたらしたのか～
講師 岩手看護短期大学 鈴木るり子教授
・活動報告とシンポジウム・交流会
・CCクラブ活動報告 3期 坂上宗男
・シンポジウム
高輪いきいきプラザ幼児英語教育<英語でしゃべっちゃオ>
2期 田部揆一郎
港区パーキンソン病友の会の新設と歩み
3期 小原進

- 港区にノルディックウォーキングを!
4期 藤原まき子
- ・交流会
- ～町会・自治会の役員として～ (16号)
・生き返った植木鉢 1期 古橋義弘
・高輪地区の町会活動に従事して
2期 安藤洋一
・高輪共和会について 3期 片桐義雄
・地域の住民になるということ
4期 野上一治
- ～CCクラブ会員の活動報告 (16号)
・被災地「気仙沼」を訪問して
4期 畔柳和子
・アートサポーターとしてのお手伝い
4期 小川町子

2012.4～2013.3 (17号～20号)

- 2012年 CCクラブ新体制紹介 (17号)
新世話人代表 企画部会、会報部会、ホームページ部会、地域連携部会
- 第5期 修了生の声 (17号)
- 1期～5期の運営委員の選出 (17号)
世話人代表 青木稔、副代表 梅澤和子 久保一雄
運営委員 正副30名 部会員(協力部員を含む) 31名 地域連携部会の新設
- 夏の集い “What a Wonderful 2nd life!” (18号)
2012年7月14日
参加数 会員1期～6期 90名
発表
・当世・港区銭湯事情—高齢者のお風呂
1期 塩見幸子
・～自助・共助をめざして～「みなトーク」会の活動 2期 久津弘子
・高齢者チームのチャレンジ ヨットで横浜から沖縄へ 3期 片桐義雄
・ご近所の方々と会話をしていますか?
4期 平岩力
・夏の交流会報告 5期 伊藤昌一
・会報部会より、参加者の感想から

5期 大竹裕

- あなたの地区の“ふれあい相談員”をご存じですか？(18号)
- 部会だより ホームページ部会 地域連携部会 (18号)
- 部会だより 地域活動報告 明虹会の活動報告 (18号)
- 私達の活動が内閣府から「エイジレス・ライフ社会活動実践団体」に選定されました！(19号)

2012年9月24日 港区役所



港区役所での表彰と表彰状

- 「安全で安心できる暮らしのための防災教室」(19号)
 - 2012年11月7日 54名(外部9名)
 - ・開催にあたって 世話人代表 青木稔
 - ・企画部会より 5期 伊藤昌一
 - ・講座を振り返って 5期 小野田マサ子
- 活動報告(19号)
 - ・OKAMOTO「サロン」活動について
 - 1期 吉田秀博
 - ・「エンゼルの会」ご報告
 - 3期 山根幸子
 - ・介護予防とは 3期 入江紀子
 - ・ノルディックウォーキングを通しての社会貢献 4期 藤原茅子
 - ・大使館と史跡めぐりの活動状況
 - 5期 増田由明
- 地域連携部会だより(19号)
 - 活動状況報告の概要 2期 吉田由紀子
- CC通信第20号はクラブ発足5周年記念号です(20号)
- 活動報告会とシンポジウム～広がる高齢者支援の輪～(20号)
 - 2013年2月23日
 - 明治学院大学2号館 2302号室
 - 来賓、一般参加者、区役所、明治学院大

学関係者、CCクラブ会員(140余名)

- 合計約180名を超える参加者
- ・挨拶 CCクラブ 青木稔世話人代表、港区 武井雅昭区長、明治学院大学 鶴殿博喜学長、港区 田中秀司副区長、CCクラブ 久保一雄副代表
- ・活動報告 2012年度CCクラブ活動報告 4期 伊藤文子
- ・シンポジウム
 - ふれあい相談を通じた高齢者の実態 芝地区ふれあい相談員 近藤朋美氏
 - 活動状況調査の結果から見えるもの
 - 2期 吉田由紀子
 - とらべり会の活動 3期 池谷敏雄
 - 赤坂青山地区高齢者「ふれあいサロン」
 - 1期 桑原水枝
- ・交流会
- 地域貢献活動報告(20号)
 - ・「港区まち創り研究会」の活動報告
 - 2期 安藤洋一
 - ・動き出した3年目を迎える「芝CCクラブ」2期 細井典子
- 高齢者福祉活動報告(20号)
 - ・生涯教育で大切な事“希望、探究心”
 - 4期 出島彰
 - ・私の好きな歌を歌い続け、4年目
 - 2期 仲島泰子
 - ・「人生100年」に向けて！
 - 3期 田中真弓
 - ・「楽体(らくだ)クラブ」が目指すもの
 - 5期 佐藤洋
 - ・高齢者施設ボランティア“買い物代行サービス” 5期 大竹裕
- CCクラブ主催講演会「海外に学ぶアクティブ シニアライフスタイル」(20号)
 - 2012年12月12日
 - 明治学院大学白金キャンパス
 - 2号館 2302教室
 - 講師 三菱総合研究所 松田智生氏
 - ・講演会に参加して 3期 池谷敏雄
 - ・リタイアメント・コミュニティ
 - 4期 奥田博章

- ・講演「アクティブシニア」を聴いて感じたこと 6期 篠原咲子

2013.4～2014.3(21号～24号)

- 2013年度CCクラブ新体制紹介(21号)
 - 世話人代表、副代表 企画部会、地域連携部会、ホームページ部会、会報部会
- 運営委員の選出(1期～6期)(21号)
 - 世話人代表 村岡洋二、副代表 飯塚洸子
 - 運営委員 21名 1～5期は各期3名 6期は6名(他代理6名) 部会員(協力部員を含む)25名
- 感謝と決意を秘めて…～6期生のメッセージから～(21号)
- 2013年第1回講演会(22号)
 - 2013年7月20日(土) 明治学院大学 2301号室
 - 講師 明治学院大学 井上孝代名誉教授
 - テーマ「60歳からのルネサンス～エイジングの心理学～」
 - 会員1期～6期参加 90余名
 - ・講演会に参加して(その1)
 - 6期 山田昌子
 - ・講演会に参加して(その2)
 - 6期 大竹章久
 - ・講演会に参加して(その3)
 - 一般 大和禎子
- 七夕シンポジウム報告(22号)
 - 一港区高齢者2人世帯の生活実態調査報告—
 - 2013年7月7日に開催された河合教授主幹のシンポジウムの報告
 - “おふたりさまでも、安心できない”
 - 6期 川上利春
- CCクラブ会員用サイトのリニューアル(22号) 6期 斎藤正精
- 地域連携部会だより(22号) 2期 吉田由紀子
- アンケート中間報告(22号)
- CCクラブ第2回講演会(23号)
 - “協働とは?”～日頃の気楽な“いとなみ”にある～
 - 2013年11月6日 港区立白金台いきいき

プラザ B2ホール
講師 安藤雄太(東京ボランティア・市民活動センターアドバイザー)氏
港区産業・地域振興課 遠井基樹課長

事例発表

- ・ベИАアッププロジェクト
 - 2期 道佛仁子
- ・協働・芝CCクラブ会員の活動
 - 3期 新井隆治
- ・第6回健康長寿inみなと
 - 6期 遠山哲
- ・NPO法人あざ六プラスの紹介
 - 一般参加 高柳由紀子
- 【明治学院創立150周年記念EXPO2013】白熱討論会について(23号)
 - 2013年12月14日午後 明治学院大学2号館2302教室 参加人数120名
 - 大学生とCCクラブ会員が「社会貢献」をキーワードにした討論会
 - 討論参加者
 - 1期 吉田、2期 田部、馬場、3期 梅宮、坂上、5期 呉、6期 宇賀神、篠原、尾藤、忍足
 - ・あれ？討論って…楽しい!!
 - 6期 尾藤幸彦
 - ・「世代間交流」という新しいコミュニティ～若者とプラチナ世代が激論バトル!!～
 - 実行委員長 明治学院大学 社会福祉学科4年 荻野真奈美



白熱討論会会場

- 「活動状況報告書」のまとめ(23号)
 - 地域連携部会 2期 吉田由紀子
- “全地区にCCクラブ誕生”(23号)
 - ・高輪地区CCクラブ 1期 米永栄一郎
 - ・3Aクラブ(赤坂・青山・麻布地区)
 - 6期 篠原咲子
- CCクラブ2013年度活動報告会とシンポジウム＆交流会～広げよう地域の輪～

ひとの輪～ (24号)

- 2014年3月1日(土)
- 明治学院大学 2301教室 参加者156名
- ・挨拶 港区 武井雅昭区長、
明治学院大学 鶴殿博喜学長
- ・地域CCクラブ「現状と今後の取り組み」
基調講演 明治学院大学 河合克義教授
報告 明虹会「芝浦・港南・台場地区」
芝CCクラブ「芝地区」
高輪地区CCクラブ
3Aクラブ「赤坂・青山・麻布地区」
2013年度CCクラブ活動報告
- ・シンポジウム

- 明治学院創立150周年記念事業 (24号)
- ・ラッキー! (千載一遇) 5期 呉東富
- CCクラブメンバーによる地域活動の紹介
・地域連携部会 吉田由紀子 (24号)

2014.4～2015.3 (25号～28号)

- 2014年度CCクラブ新体制紹介 (25号)
世話人代表、副代表 企画部会、地域連携部会、ホームページ部会、会報部会
- 有難うと頑張りますのメッセージ～7期生から寄せられた声～ (25号)
- 運営委員会 (1期～7期) (25号)
世話人代表 村岡洋二、副代表 篠原咲子
運営委員 21名 1～7期各期3名 (他代理8名) 部会員 (協力部員を含む) 27名
地域CCクラブ委員4名
- 平成26年度CCクラブ・ホームカミングデー～特別講演と地域活動の紹介～(26号)
2014年7月26日(土) 明治学院大学 白金校舎 会員1期～7期他 139名
- ・特別講演
講師 明治学院大学 鶴殿博喜学長
テーマ ドイツをめぐる雑感
- ・平成26年度CCクラブ・ホームカミングデー地域活動の紹介
芝の語り部 5期 増田由明
「みなと第九を歌う会」
2期 田部揆一郎

- 「ブルモン料理研究会」
6期 斎藤正精
- 「Kiss ポート・エンジェルス・ハーモニー」
5期 暮地友子

- パリ研修旅行速報 (26号)
パリの青空のもとで 2期 吉田由紀子
- 地域活動紹介 (26号)
白金台いきいきプラザ 麻雀ボランティア
6期 白井レツイ
- フランス研修旅行報告～フランスの法律と福祉を学ぶ～ (27号)
・フランス研修旅行の意義
河合克義教授
- ・日仏の成年後見制度について
今尾真教授
- ・フランスの民間団体の活動
河合克義教授
- ・フランス研修旅行に参加しての雑感
1期 飯塚洸子



パリ第2大学バンテオン校舎

- 平成26年度秋のイベント～新東京丸に乗って東京湾の役割を学ぼう～ (27号)
第1部 海上からの施設見学
第2部 第2部東京みなと館・浜離宮散策
- 2014年度シンポジウム・活動報告会～地域でやっていること・やりたいこと～ (28号)
港区との共同開催
2015年2月28日(土) 明治学院大学 3201教室 212名参加
- 第1部シンポジウムと活動報告会
・挨拶 CCクラブ 村岡洋二世話人代表、
港区 武井雅昭区長、
明治学院大学 鶴殿博喜学長
- ・シンポジウム

- コーディネーター
明治学院大学 河合克義教授
- ・基調報告「その一歩、人がつながる楽しいまちづくり」
港区協働推進委員会 安藤雄太委員長
- ・パネルディスカッション
会社の活動紹介
太陽生命保険株式会社 秋山清茂氏
団体の活動紹介
ジービーパートナーズ 上野佳志子氏
大橋力氏
- 高輪一丁目町会松が丘部会活動
高輪地区CCクラブ 2期 安藤洋一
7年目の「みなトーク」会活動
高輪地区CCクラブ 2期 久津弘子
ペーパークラフト講座活動
芝CCクラブ 5期 佐々木博子
介護相談活動
明虹会 6期 石高則子
子ども会や東麻布街づくり活動
3Aクラブ 7期 宮崎貴美子
- ・全体講評 安藤雄太委員長 河合克義教授
- ・活動報告
2014年度CCクラブの1年を振り返る
クラブ活動報告 会報部会 大竹裕(5期)
クローズアップCCについて
地域連携部会 川上利春 (6期)
- ・港区のお知らせ
高輪地区総合支所協働推進課
野澤靖弘課長
- ・閉会あいさつ
港区地域振興課 遠井基樹課長
- 第2部 交流会
- 地域CC年間活動報告 (28号)
芝CCクラブ、明虹会 (港南・芝浦・台場



シンポジウム会場

港南地域CCクラブ)、高輪地区CCクラブ、
3Aクラブ (赤坂・青山・麻布地域CC)

2015.4～2016.3 (29号～32号)

- 2015年度CCクラブ新体制あいさつ(29号)
世話人代表、企画部会、地域連携部会、
ホームページ部会、会報部会の紹介
- ありがとうと頑張りますのメッセージ～8期生から寄せられた声～ (29号)
- 運営委員会 (1期～8期) (29号)
世話人代表 斎藤正精、
副代表 丸山保夫 (期中より)
運営委員 24名 1～8期各期3名 (他代理5名) 部会員 (協力部員を含む)
24名 地域CCクラブ委員4名
- 平成27年度CCクラブ・ホームカミングデー～邦楽演奏と地域活動の紹介 (30号)
2015年7月22日(土) 13時30分より
明治学院大学白金校舎アートホール
会員1期～8期 170名
- ・第1部 三味線演奏:あなたの知らない邦楽ワンダーランド
演奏者 中島久子 (5期)を始め中島勝
祐記念会の皆さん
「娘道成寺」、「勸進帳」、「鏡獅子」そ
して「松、竹、梅」の演奏と解説
- ・第2部 ご一緒しませんか? 私たちの地域活動 初心者大歓迎
介護予防リーダーの活動これから
6期 小倉徳子
NPO法人プラチナ美容塾 美容ボラ
ンティア活動紹介 & 美容ボランティ
アへのお誘い 4期 伊藤文子
白金台いきいきプラザの麻雀
5期 大竹裕
- ・展示コーナー一覽
- 2015年度夏・秋のイベント特集 (31号)
・宮古島・CCクラブ研修旅行
訪問記 宮古島市役所、福祉部福祉調整
課宮古島市社会福祉協議会、特別養護老
人ホーム松風園



宮古島 特別養護老人ホーム松風園と研修参加者

- ・感想文
- ・～今年もまた新東京丸に乗って東京湾を見学しよう～
- ・NHK 歌謡コンサート
- 活動報告～町会活動特集～ (31号)
 - ・三田一丁目町会 5期 伊藤昌一 (芝)
 - ・芝浦三・四丁目町会 2期 青木稔 (明虹会)
 - ・高輪一丁目、松ヶ丘会 2期 安藤洋一 (高輪)
 - ・赤坂八丁目町会 3期 西勇治 (3A)
- CCクラブ2015年度活動報告会～めげないシニアの作り方～ (32号)

2016年2月27日(土) 明治学院大学 3201教室 210名参加

活動報告会

 - ・挨拶 CCクラブ 斎藤正精世話人代表、港区 武井雅昭区長、明治学院大学 鶴殿博喜学長
 - ・CCクラブ活動報告 2015年度CCクラブ活動報告 副代表 7期 丸山保夫 地域活動の状況 地域連携部会 8期 野村知義
 - ・事例報告

豊岡いきいきプラザでのシニア英会話教室 講師 港区豊岡いきいきプラザ 今中亜希子氏 2期 田部揆一郎 5期 小野田マサ子 「ラクっちゃ」における介護予防リーダーの活動 港区介護予防総合センター 佐藤むつみ氏 3期 新井隆治

港区芝浦港南総合支所との協働事業 港区芝浦港南地区総合支所 羽田悠一郎氏 2期 青木稔

あなたの知らない吹奏楽

明治学院大学 愛好会 吹奏楽部
 活動の現状と今後の活動
 チャレンジコミュニティ・クラブの意義と今後の活動への期待
 明治学院大学 河合克義教授
 CCクラブの今後の課題
 CCクラブ 斎藤正精世話人代表
 ・交流会

- 2015年度地域CC年間活動報告 (32号)

芝CCクラブ、明虹会 (港南・芝浦・台場港南地域CCクラブ)、高輪地区CCクラブ (三田4・5丁目、高輪、白金、白金台)、3Aクラブ (赤坂・青山・麻布地域CC)

2016.4～ (33号)

- 2016年度CCクラブ新体制あいさつ(33号)

世話人代表、副代表、企画部会、地域連携部会、ホームページ部会、会報部会、総務部
- 学ぶ喜びと出会いをありがとう!～9期生から寄せられた声～ (33号)
- 運営委員の選出 (1期～9期) (33号)

世話人代表 斎藤正精、副代表 丸山保夫
 運営委員 1期2名、2期2名、3期1名、4期1名、5期1名、6～9期各期3名 合計19名
 部会員 (協力部員を含む) 36名、地域CCクラブ委員4名
- 会員数 495名 (2016年6月現在)
- 第1回チャレンジコミュニティ・クラブ定期総会 (HP版、特別号)

7月16日14時5分～15時20分
 明治学院大学白金校舎2301教室
 来賓、会員参加者合計110名
- 平成28年度CCクラブ・ホームカミングデイ

7月16日15時35分～16時45分
 特別講演会 (HP版、特別号)
 「ぼくのライフワークはアホウドリの再生」
 東京都民文化栄誉賞受賞者・東邦大学 長谷川博名誉教授

交流会

チャレンジコミュニティ・クラブ 活動実態調査報告 - 会員調査のデータから (速報) -

はじめに

チャレンジコミュニティ大学（CC 大学）の10周年記念事業の一つとして、チャレンジコミュニティ・クラブ（CC クラブ）会員を対象に、会員の特徴、意識、活動実態を把握する調査を実施した。本報告は、その速報である。ここでは、調査項目すべての結果に触れることはできない。最終報告書は、別に CC クラブとして、今年度中に公表する予定である。

1. 調査の概要

(1) 調査の名称

チャレンジコミュニティ・クラブ活動実態調査

(2) 調査の目的

調査の目的は、CC クラブの会員の特徴、意識そしてどのような地域活動に関わっているのかを明らかにし、今後の CC クラブ活動のあり方を検討するための基礎資料を得ることである。

(3) 調査の対象

調査の対象は、CC クラブの会員、第1期生から第8期生までの437名である。CC 大学は、1期60名の入学定員であり、その修了生が CC クラブの会員になる。ただし、転居その他の理由から、調査では437名が対象となった。

(4) 調査主体

調査主体は、CC クラブである。なお、調査にあたっては CC 大学の事務局である港区と明治学院大学の協力を得ている。

(5) 調査時点

調査時点は、2016年1月1日現在である。

(6) 調査方法

調査票は、各期の代表者（運営委員）を通して配布、回収した。

(7) 回収率

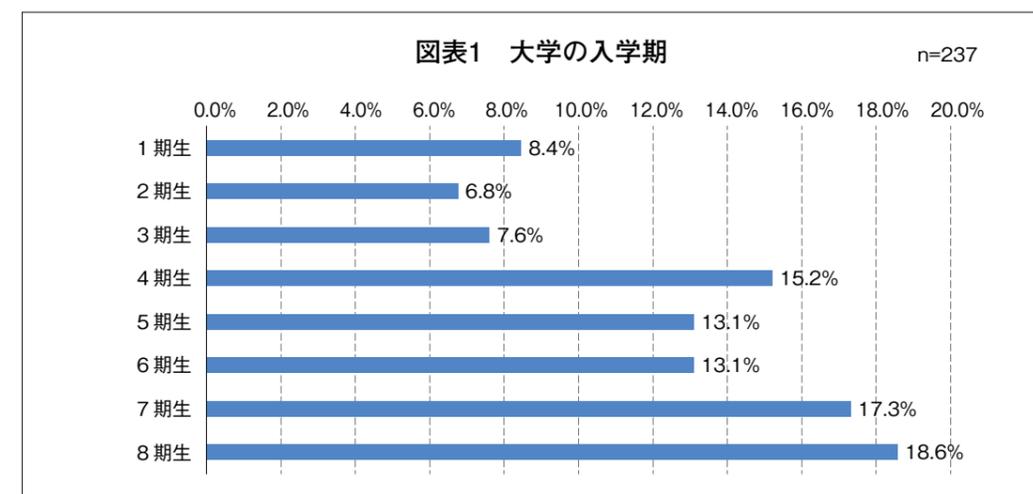
有効回収数は、237 ケース、有効回収率は54.2%であった。

2. 調査の結果

ここでは、調査項目の主なものについて紹介する。以下は、速報値であり、基本集計を紹介し、自由回答の内容については言及しない。またクロス集計も最終報告書において行う。

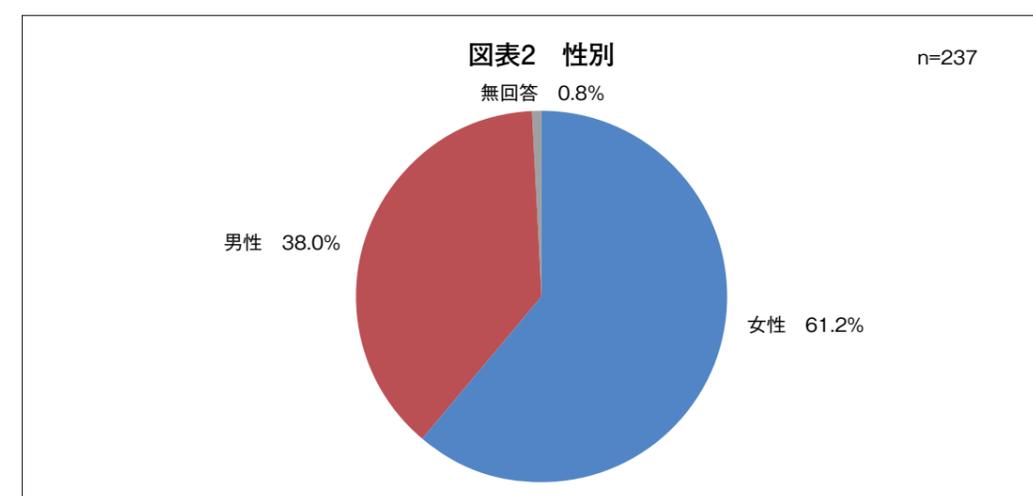
(1) CC クラブ会員の基本属性

① 入学期



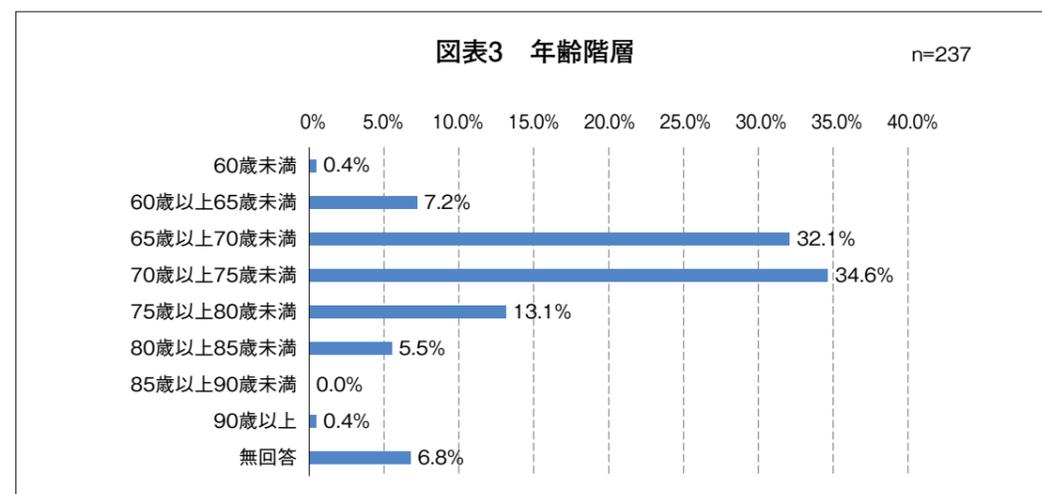
CC クラブは、CC 大学の修了生で組織されているが、調査時点では、9期生はまだ CC 大学の在大学生であり、調査対象は1期から8期までの437名とした。図表1のとおり、回答総数の237の内、1期から3期までは1割弱、4期から6期は1割半、7期と8期は2割弱を占めている。

② 性別



図表2のとおり、女性は61.2%、男性は38.0%となっている。女性が全体の6割を占めていることが分かる。

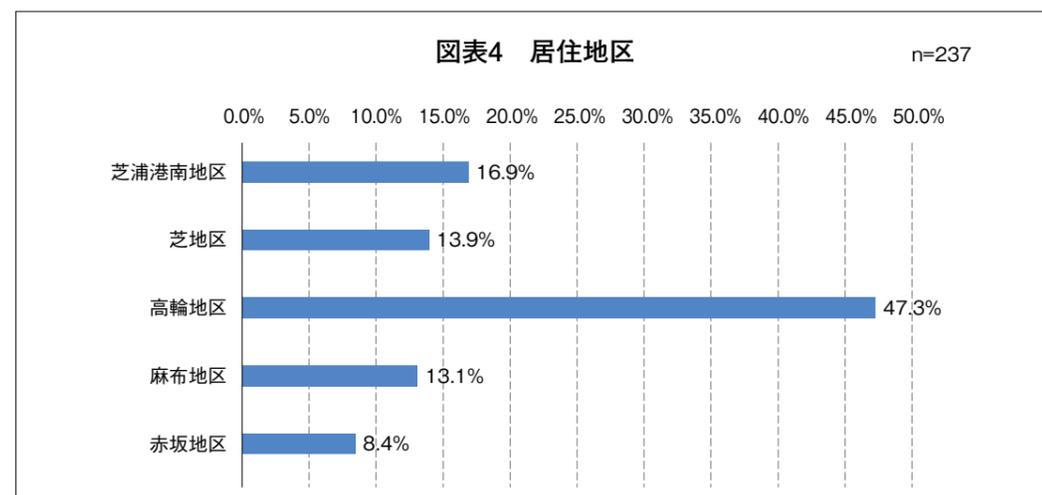
③ 年齢



CC大学の入学資格は、60歳以上の区民を基本としているが、港区の民生委員・児童委員については、60歳以下でも入学を認めている。そのことから60歳未満のCCクラブ会員もいる。図表3は、年齢階層を見たものである。70歳以上75歳未満が34.6%と最も多く、次いで65歳以上70歳未満が32.1%、75歳以上80歳未満が13.1%、60歳以上65歳未満が7.2%となっている。

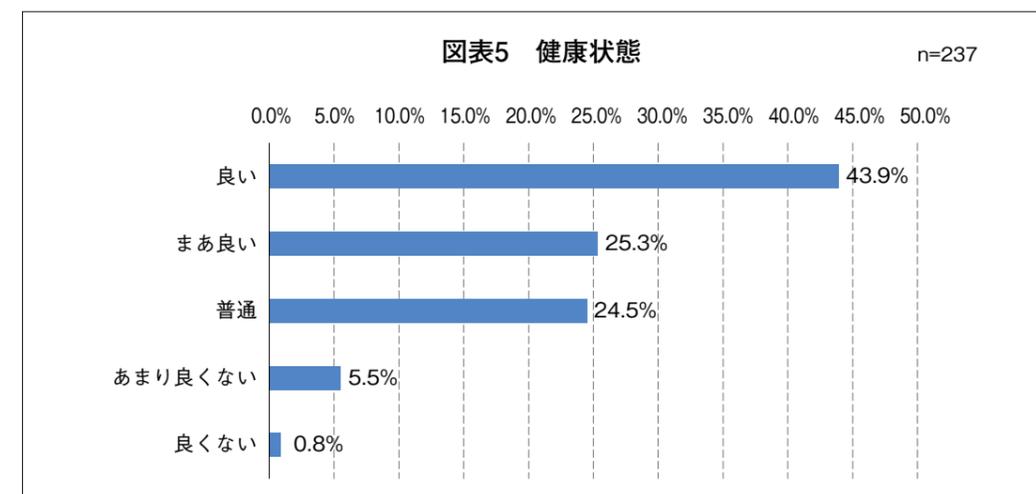
以上のように、60歳代が全体の4割、70歳代が5割を占める。80歳代も5.5%を占める。なお、最低年齢は57歳、最高年齢は95歳、平均年齢は71歳であった。

④ 居住地区



CCクラブの会員の居住地区を見ると（図表4）、最も多い地区は高輪地区で47.3%と約半数を占める。これは、CC大学が高輪地区の明治学院大学で開講していることで、近隣の方の参加が多くなっていることによる。他の地区は、赤坂地区が1割弱であることを除いて、1割半前後を占めている。

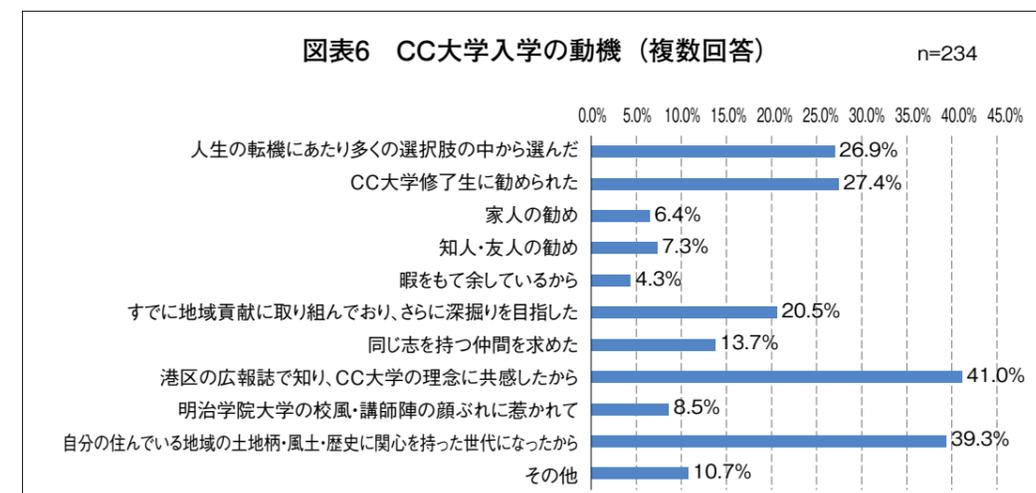
(2) 健康状態



CCクラブの会員の健康状態を図表5で見ると、「良い」が43.9%、「まあ良い」が25.3%となっている。反対に、「良くない」は0.8%、「あまり良くない」は5.5%であった。健康状態が良い人は、「普通」を含めると93.7%と9割以上が健康ということになる。

ここでは、図表を掲載できないが、「毎日運動している」人が17.7%。「定期的に運動している」人が61.6%と全体の79.3%、全体の8割が運動を日常生活に位置付けている。そして、運動している人の70.1%が、スポーツジム或いは公共のスポーツ施設に通っている。

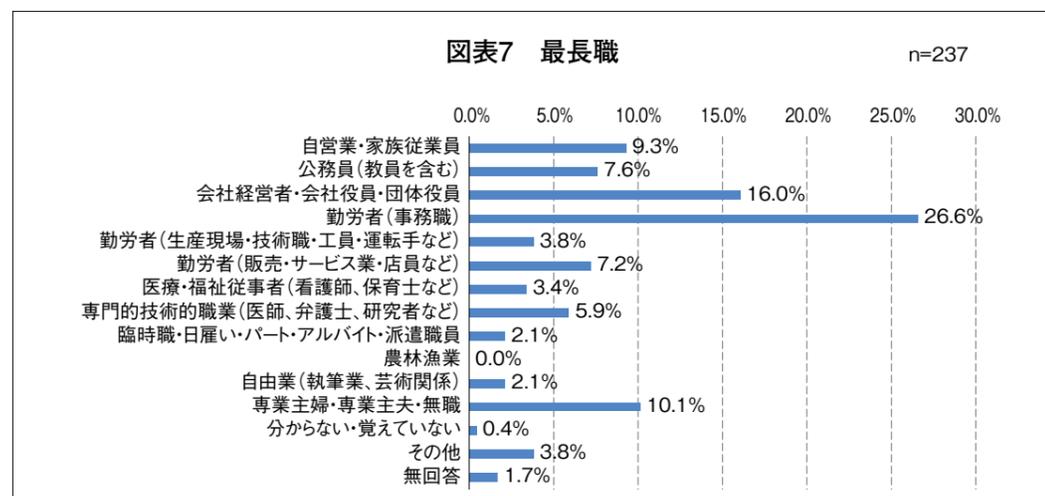
(3) CC大学入学の動機（複数回答）



CC大学入学の動機を見ると（図表6）、「港区の広報誌で知り、CC大学の理念に共感したから」が41.0%と最も多く、次いで「自分の住んでいる地域の土地柄・風土・歴史に関心をもった世代になったから」が39.3%、「CC大学修了生に勧められた」が27.4%、「人生の転機にあたり多くの選択肢の中から選んだ」が26.9%、「すでに地域貢献に取り組んでおり、さらに深掘りを目指した」が20.5%であった。

「CC大学修了生に勧められた」に「家人の勧め」と「知人・友人の勧め」を加えると、41.1%と、全体の4割は、口コミで入学してきていることが分かる。

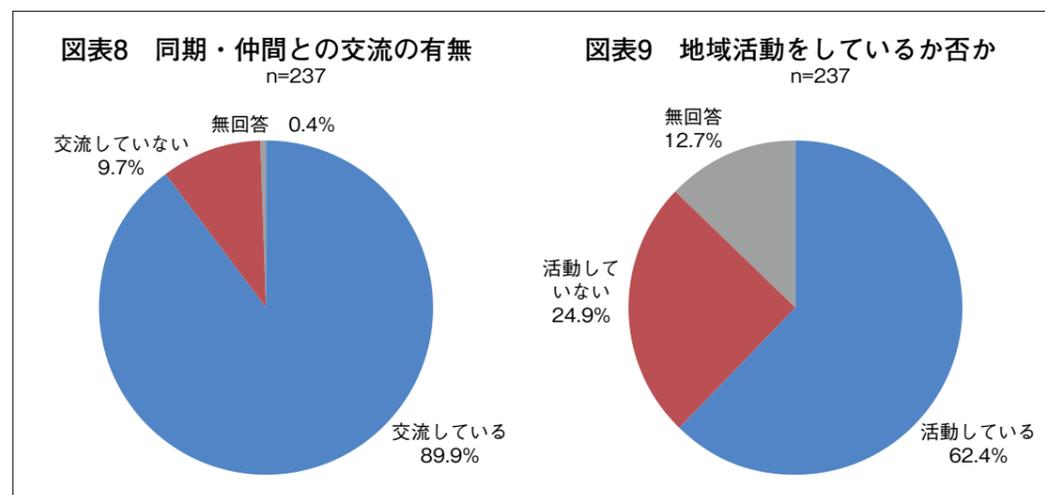
(4) 最長職



CCクラブ会員の最長職（生涯の中で一番長く就いていた職業）を見ると（図表7）、「勤労者（事務職）」が26.6%と最も多く、次いで「会社経営者・会社役員・団体役員」が16.0%、「自営業・家族従業員」が9.3%、「公務員」が7.6%となっている。「専業主婦・専業主夫・無職」は10.1%であった。

「会社経営者・会社役員・団体役員」、「自営業・家族従業員」、「専門的技術的職業」と「公務員」を合わせると38.8%となり、職業階層的には安定した層が4割を占めている。

(5) 同期・仲間との交流、地域活動への参画



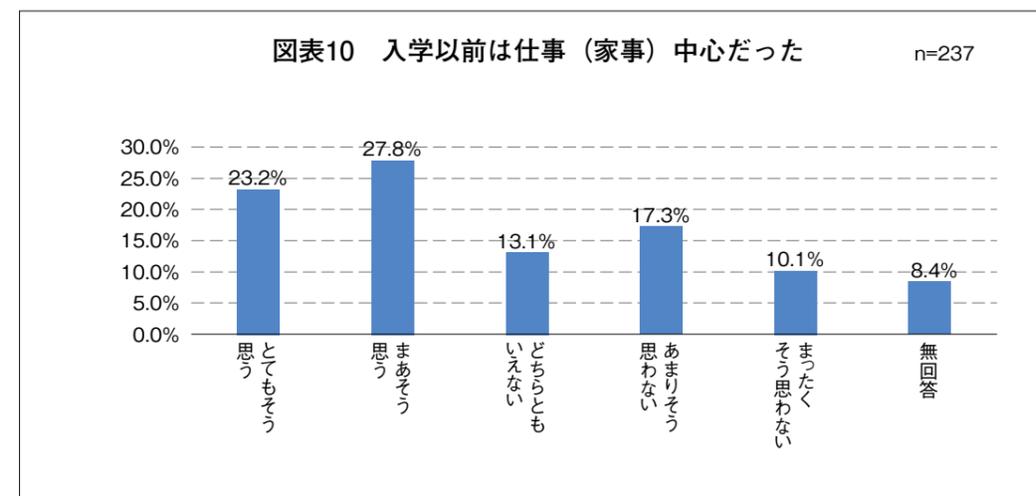
CCクラブの同期や仲間と交流しているかどうかについては（図表8）、交流している人が89.9%と、ほぼ9割をも占めている。

また地域活動、福祉活動をしているかどうかについては（図表9）、活動している人が62.4%と大半を占めている。

(6) CC大学に関わる意識

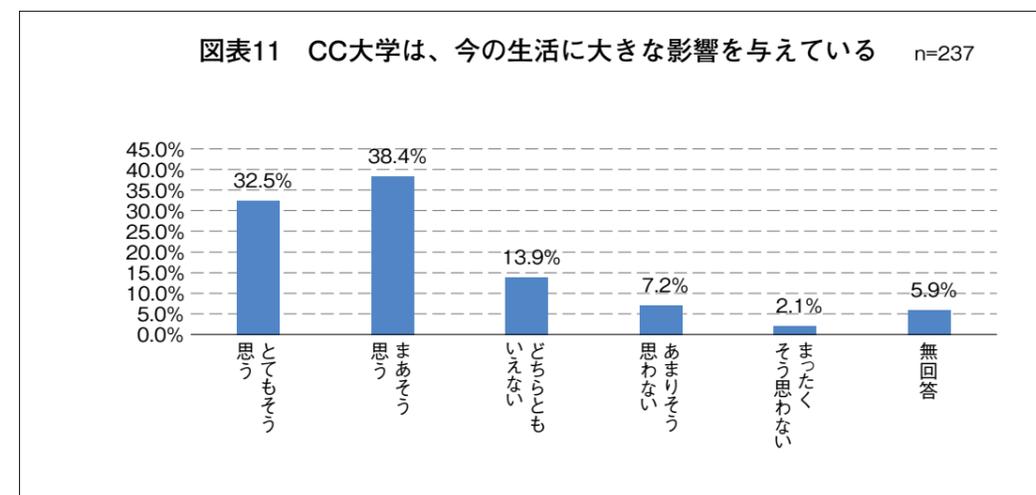
CC大学に関する意識について、いくつかの指標について「とてもそう思う」から「まったくそう思わない」まで5つの段階を設けて尋ねた。

① 入学以前の意識



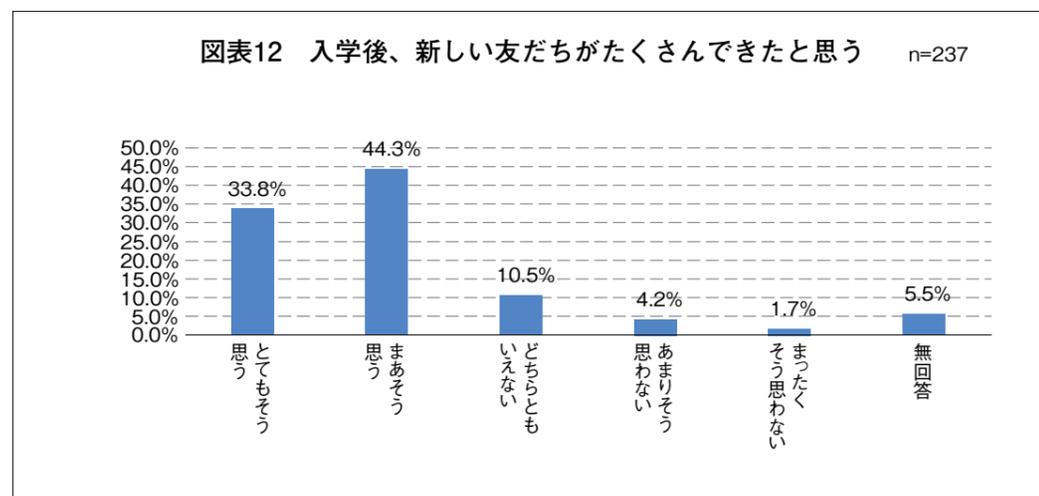
「入学以前は仕事(家事)中心だった」という意識については（図表10）、「とてもそう思う」が23.2%、「まあそう思う」が27.8%となっている。この2つを合わせると、51.0%と半数を占める。

② 今の生活への影響



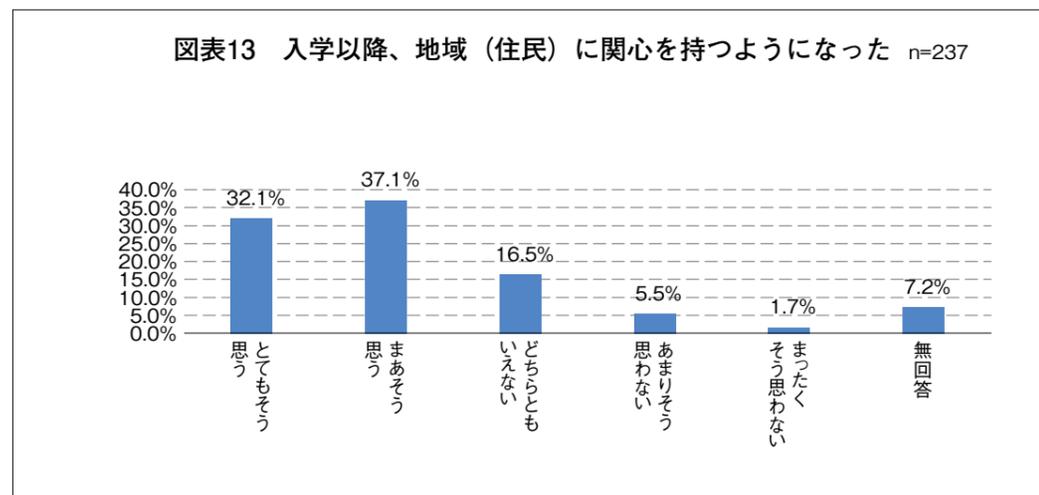
「CC大学は、今の生活に大きな影響を与えている」については（図表11）、「とてもそう思う」が32.5%、「まあそう思う」が38.4%となっている。2つを合わせて70.9%と、全体の7割の人が、大きな影響を与えていると答えている。

③ 新しい友だち



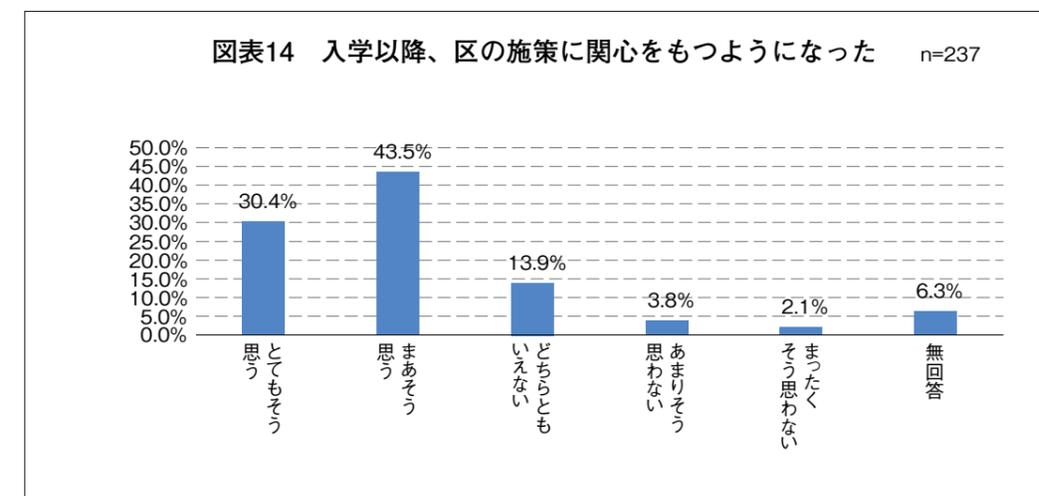
「入学後、新しい友だちがたくさんできたと思う」については（図表12）、「とてもそう思う」が33.8%、「まあそう思う」が44.3%であった。2つを合わせて78.1%と、全体の8割が新しい友だちがたくさんできたという意識を持っている。

④ 地域或いは住民への関心



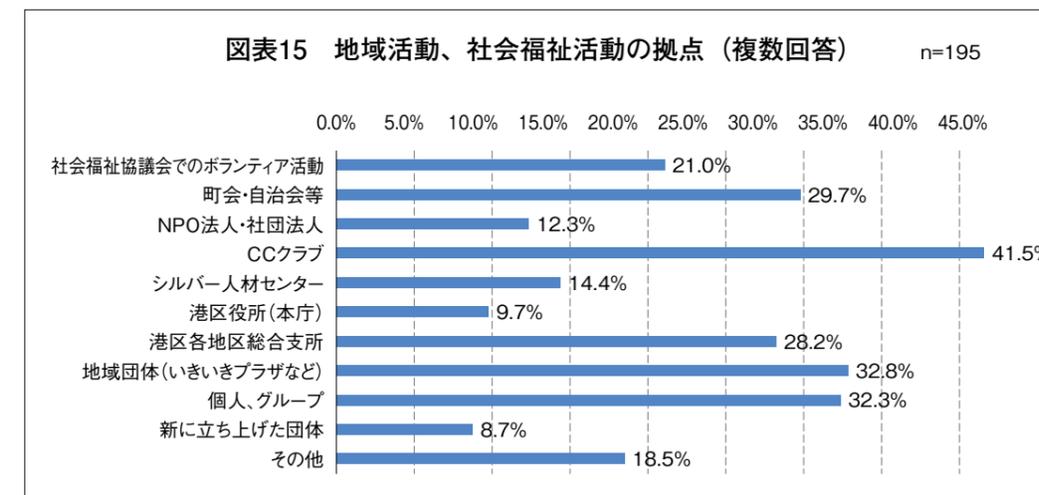
「入学以降、地域（住民）に関心を持つようになった」については（図表13）、「とてもそう思う」が32.1%、「まあそう思う」が37.1%となっている。この2つを合わせて69.2%と、全体の7割が、入学以降、地域あるいは住民に関心を持つようになったという意識を持っている。

⑤ 区の施策への関心

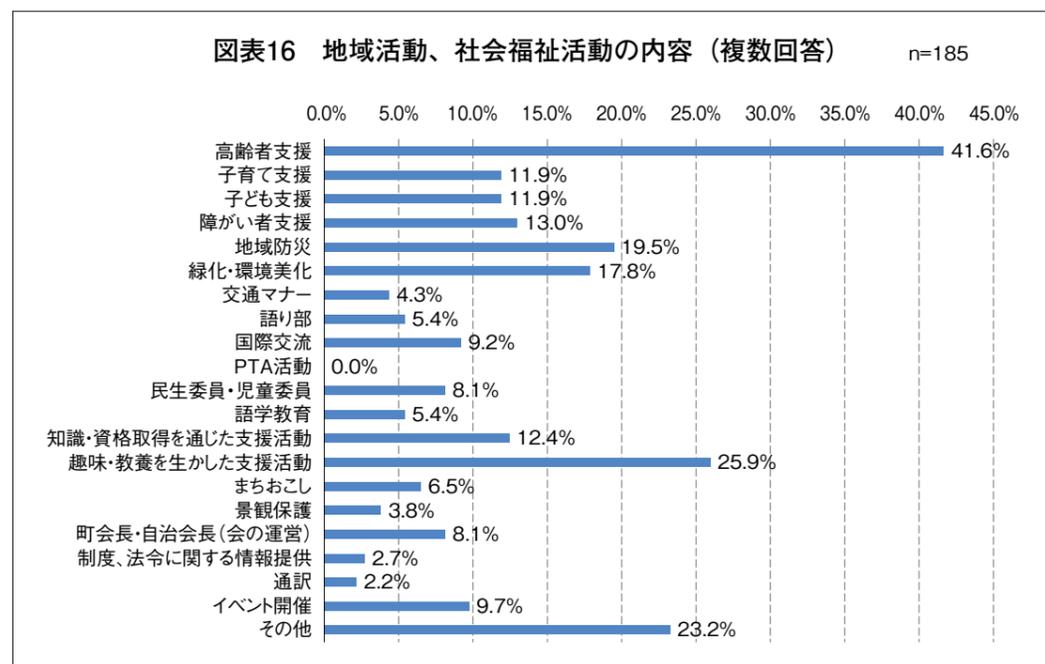


「入学以降、区の施策への関心に関心を持つようになった」については（図表14）、「とてもそう思う」が30.4%、「まあそう思う」が43.5%となっている。2つを合わせて73.9%と、全体の7割半近くが、入学以降、区の施策に関心を持つようになっている。

(7) 地域活動、社会福祉活動の拠点と内容

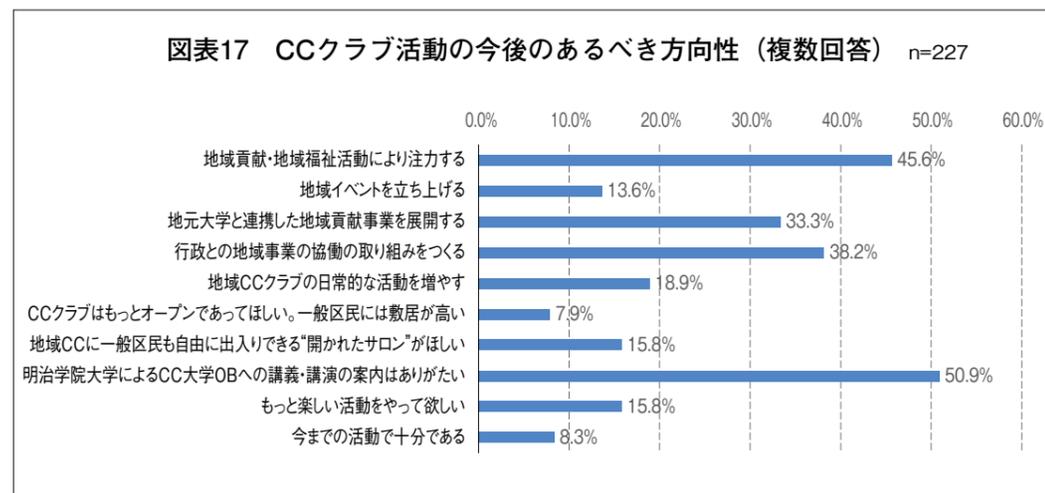


CCクラブの会員は、多様な活動を地域で担っている。図表15は、地域活動、社会福祉活動をどこで行っているか、その拠点を尋ねたものである（複数回答）。「CCクラブ」が41.5%と最も多いが、次いで「地域団体（いきいきプラザなど）」が32.8%、「個人、グループ」が32.3%、「町会・自治会等」が29.7%、「港区各地区総合支所」が28.2%、「社会福祉協議会でのボランティア活動」が21.0%となっている。なお、CCクラブの会員で、区行政の各種委員会に委員として参加している人も多く、そのことを裏付けるように「港区役所（本庁）」が9.7%を占めている。また、総合支所の地域事業へ「協働・参画」により活動している人もあり「港区各地区総合支所」を拠点にしている人が全体の3割近くを占めている。



図表 16 は、地域活動、社会福祉活動の内容を尋ねたものである（複数回答）。最も多い活動内容は、「高齢者支援」で 41.6% となっている。次いで、「趣味・教養を生かした支援活動」が 25.9%、「地域防災」が 19.5%、「緑化・環境美化」が 17.8%、「障がい者支援」が 13.0%、「知識・資格取得を通じた支援活動」が 12.4%、「子育て支援」と「子ども支援」がともに 11.9% となっている。なお、「民生委員・児童委員」と「町会長・自治会長」がそれぞれ 8.1% となっている。

(8) CC クラブ活動の今後のあるべき方向性



最後に CC クラブの活動の今後のあるべき方向性について尋ねた（複数回答）。図表 17 のとおり、「明治学院大学による CC 大学 OB への講義・講演の案内はありがたい」が 50.9% と最も多くなっている。次いで「地域貢献・地域福祉活動により注力する」が 45.6%、「行政との地域事業の協働の取り組みをつくる」が 38.2%、「地元大学と連携した地域貢献事業を展開する」が 33.3% となっている。

おわりに

はじめに述べたように、本報告は、速報であり、調査項目の主なものを紹介したに過ぎない。本格的分析をもとに、最終報告は別に発行するので、それをご覧いただきたい。

以上、ここでは、概要を述べたに過ぎないが、CC 大学の意義と CC クラブの実態、今後の方向性が見えてきた。CC 大学はすでに 10 期生が現在学んでおり、来年 3 月には修了生の合計が 600 名となる。本調査の対象は 8 期生までの 437 名であるが、図表 9 にあるように、何らかの地域活動をしている人が 6 割を占めているので、CC クラブの会員総数が 600 名になったとしてその 6 割が活動するとする仮定するならば、地域活動をする人が 360 名となる。これは地域活動の主体として非常に大きな力となる。

さらに CC 大学の成果として、活動のレベルと同時に注目したいのは、新たな友だち・仲間ができたことである。図表 12 では 8 割の CC クラブの会員が新しい友だちがたくさんできたと答えており、これも 600 人を母数にすると、その 8 割は 480 名となる。新たな相互の繋がりは、CC クラブ会員がすでに実感していることで、ちょっとした外出時にもあちこちで CC クラブ会員に会うことになる。

港区は都市の中心部にあり、社会的孤立問題も深刻な地域の一つである。CC 大学で新たに作られた地域ネットワークは、わが国の「共同体の人間関係再生」へ向けた大きな挑戦と言ってよい。

(本調査報告執筆：河合克義)

チャレンジコミュニティ・クラブ会員 活動グループ状況調査報告

(1) はじめに

すでに述べた「チャレンジコミュニティ・クラブ活動実態調査」と同時に(2016年1月1日現在)、チャレンジコミュニティ・クラブ(CCクラブ)の会員に対し、主に活動グループについての調査を実施した。つまり、会員がどのような活動グループに所属しているか、またそのグループ活動の内容を知るための調査である。

調査項目は、①活動内容別区分、②参加・企画の概要または内容、③開催の内容、④役割、⑤関連団体、⑥活動拠点、⑦活動地区、⑧活動のタイプ、⑨地区チャレンジコミュニティ・クラブへの所属の有無、⑩会員数、⑪ホームページ記事・機関誌、⑫参加公募の有無の12項目である。

「チャレンジコミュニティ・クラブ活動実態調査」で答えてくれた237名の中で、グループ活動をしている人が答えてくれた。

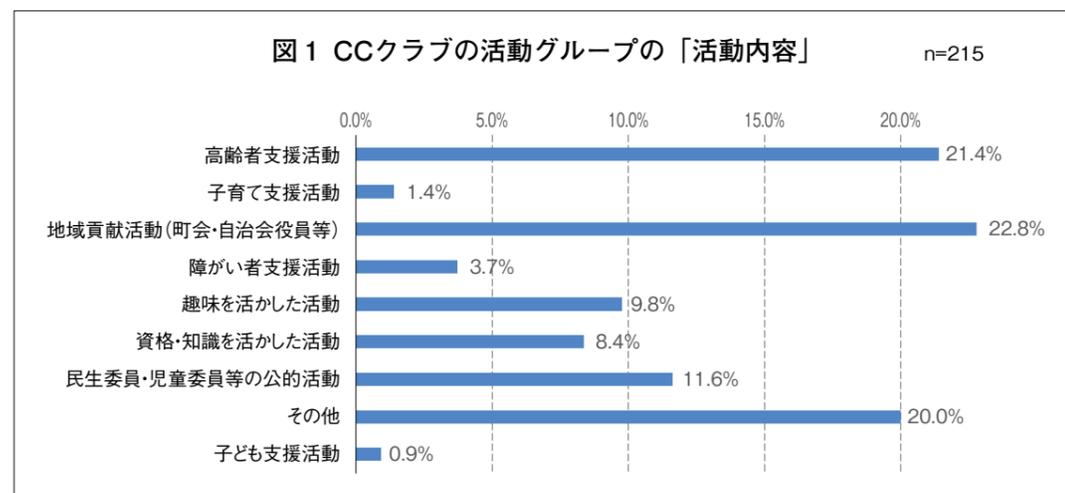
ここでは、本調査の速報として「活動グループ数」、「活動内容」、「活動拠点」についてのみ述べる。

(2) 活動グループ数

CCクラブ会員は、さまざまな活動を通して地域に寄与している。活動グループの数は、2016年1月1日現在、215グループである。

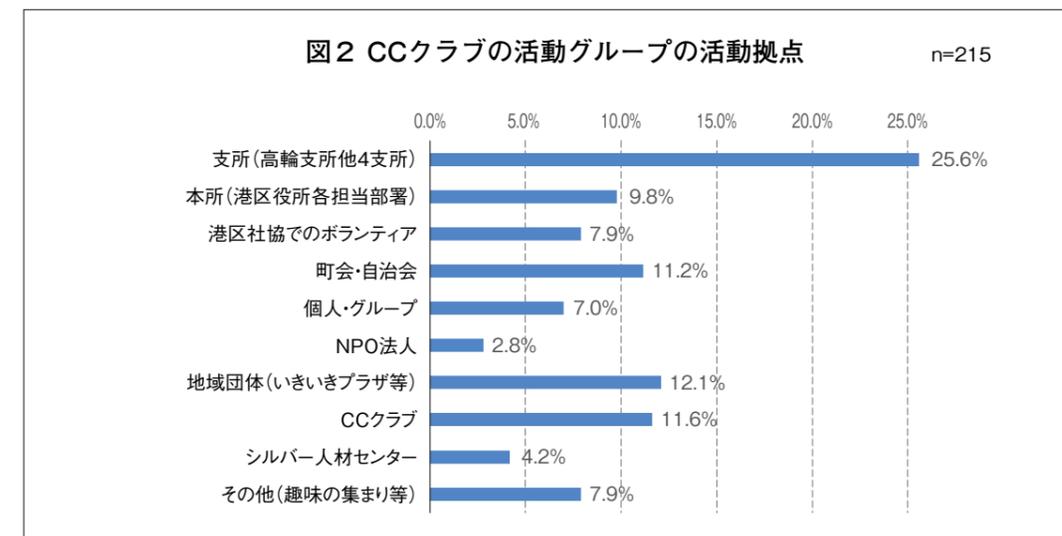
(3) 活動内容

CCクラブの活動グループの「活動内容」を図1に示す。介護予防サポーター、いきいきプラザ等で歌のボランティア活動を行う「高齢者支援活動」、町会・自治会での会長・副会長の役員活動を行う「地域貢献活動」は、21～22%台である。民生委員・児童委員あるいは港区役所が開催する区民委員として組織的活動をする会員は11%である。子育て支援、子ども支援活動については、1%前後と少ない。



(4) 活動拠点

活動グループが活動する拠点を図2に示す。活動拠点として最も多いものが、港区の各地区総合支所が主催するイベント等に企画段階から参加し、地域の活性化に寄与しているもので、25.6%を占める。ついで、いきいきプラザ等の地域団体が12.1%、CCクラブが11.6%、町会・自治会が11.2%、港区役所本所での各種委員会その他が9.8%、港区社会福祉協議会でのボランティア関係が7.9%となっている。



(5) おわりに

CC大学が発足して、10年目となった。この大学の修了生をもってCCクラブが組織され、多様な地域活動を展開している。本調査では、組織活動をしているグループが215あることが示された。その活動内容の詳細な分析は、今後の課題である。

CC大学が発足して、10年、いま200以上の組織活動があることは、港区というこの地域の貴重な財産となっている。

(本調査報告執筆：野村知義)

刊行物発行番号 28159-2235

港区・明治学院大学 連携
チャレンジコミュニティ大学 10周年記念

チャレンジコミュニティ大学
チャレンジコミュニティ・クラブ

活動報告書

-平成28年(2016年)12月発行-

発行・編集 港区高輪地区総合支所 協働推進課

港区高輪 1-16-45
電話 03-5421-7123

明治学院大学 総合企画室社会連携課
港区白金台 1-2-37
電話 03-5421-5247

協力 チャレンジコミュニティ・クラブ
